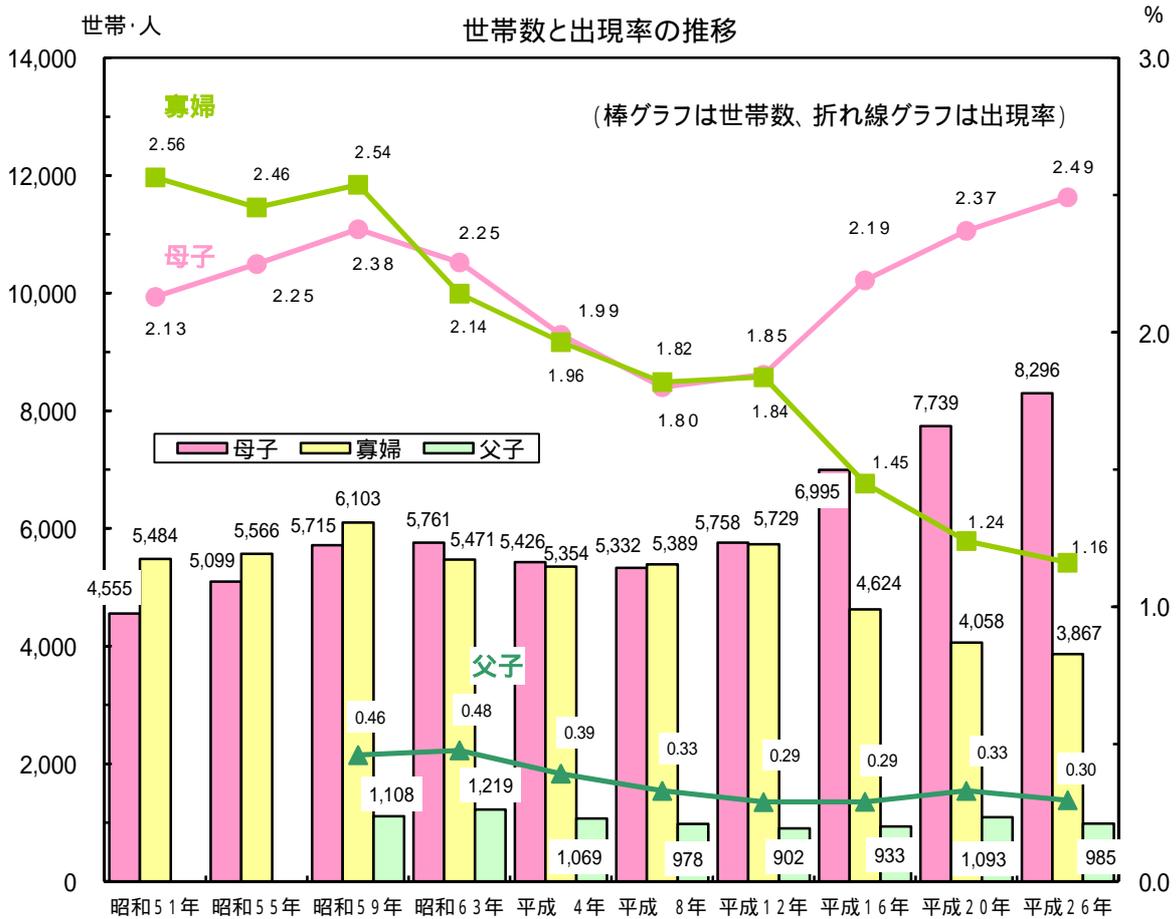


調査の結果

1 世帯数と出現率の推移

母子世帯数は増加傾向にあり、8,296世帯と調査開始以来最多となった。前回調査時(平成20年。以下、「前回」という。)からは、557世帯増加(+7.2ポイント)している。
 寡婦は減少傾向にあり、3,867人で前回より191人減少(-4.7ポイント)している。
 父子世帯数は985世帯で前回より108世帯減少(-9.9ポイント)している。
 また、総世帯数に占める割合(出現率)は、母子世帯が2.49%、寡婦が1.16%、父子世帯が0.30%となり、母子世帯の出現率が増加する一方で寡婦の出現率が減少する傾向にある。



調査年	調査期日	世帯数	母子世帯		寡婦		父子世帯		合計	
			世帯数	出現率	人数	出現率	世帯数	出現率	世帯数	出現率
昭和51年	S51.9.10	213,853	4,555	2.13	5,484	2.56			10,039	4.69
昭和55年	S55.9.1	226,682	5,099	2.25	5,566	2.46			10,665	4.70
昭和59年	S59.8.1	240,517	5,715	2.38	6,103	2.54	1,108	0.46	12,926	5.37
昭和63年	S63.8.1	255,514	5,761	2.25	5,471	2.14	1,219	0.48	12,451	4.87
平成4年	H4.8.1	272,471	5,426	1.99	5,354	1.96	1,069	0.39	11,849	4.35
平成8年	H8.8.1	296,213	5,332	1.80	5,389	1.82	978	0.33	11,699	3.95
平成12年	H12.8.1	311,860	5,758	1.85	5,729	1.84	902	0.29	12,389	3.97
平成16年	H16.8.1	319,671	6,995	2.19	4,624	1.45	933	0.29	12,552	3.93
平成20年	H20.8.1	326,763	7,739	2.37	4,058	1.24	1,093	0.33	12,890	3.94
平成26年	H26.8.1	332,903	8,296	2.49	3,867	1.16	985	0.30	13,148	3.95

父子世帯の調査は、昭和59年から実施。

市 町 村 別 世 帯 状 況

市町村名	総人口 (H26.8.1)	総世帯数 (H26.8.1)	母子世帯		寡 婦		父子世帯	
			世帯数	出現率	人数	出現率	世帯数	出現率
甲府市	194,268	85,959	2,028	2.36	1,113	1.29	224	0.26
富士吉田市	49,055	18,136	394	2.17	76	0.42	61	0.34
都留市	32,919	14,174	313	2.21	90	0.63	20	0.14
山梨市	35,467	13,196	448	3.39	322	2.44	63	0.48
大月市	25,980	10,072	217	2.15	101	1.00	37	0.37
韮崎市	31,314	11,824	328	2.77	84	0.71	27	0.23
南アルプス市	71,346	25,346	747	2.95	233	0.92	120	0.47
北杜市	45,973	17,234	382	2.22	134	0.78	44	0.26
甲斐市	73,951	29,500	720	2.44	286	0.97	68	0.23
笛吹市	69,310	26,363	786	2.98	282	1.07	93	0.35
上野原市	25,461	9,967	155	1.56	130	1.30	35	0.35
甲州市	32,221	11,607	409	3.52	280	2.41	39	0.34
中央市	30,696	12,223	218	1.78	36	0.29	10	0.08
市計	717,961	285,601	7,145	2.50	3,167	1.11	841	0.29
市川三郷町	16,083	6,112	169	2.77	72	1.18	20	0.33
西八代郡 計	16,083	6,112	169	2.77	72	1.18	20	0.33
早川町	1,096	646	10	1.55	8	1.24	2	0.31
身延町	12,937	5,282	119	2.25	96	1.82	20	0.38
南部町	8,279	2,978	59	1.98	46	1.54	16	0.54
富士川町	15,494	5,829	162	2.78	46	0.79	19	0.33
南巨摩郡 計	37,806	14,735	350	2.38	196	1.33	57	0.39
昭和町	18,873	8,006	232	2.90	82	1.02	19	0.24
中巨摩郡 計	18,873	8,006	232	2.90	82	1.02	19	0.24
道志村	1,791	592	8	1.35	16	2.70	1	0.17
西桂町	4,346	1,450	57	3.93	22	1.52	10	0.69
忍野村	8,769	2,893	56	1.94	11	0.38	6	0.21
山中湖村	5,233	1,878	39	2.08	35	1.86	10	0.53
鳴沢村	2,937	1,059	30	2.83	12	1.13	6	0.57
富士河口湖町	25,674	9,925	199	2.01	252	2.54	15	0.15
南都留郡 計	48,750	17,797	389	2.19	348	1.96	48	0.27
小菅村	706	330	6	1.82	1	0.30	0	0.00
丹波山村	595	322	5	1.55	1	0.31	0	0.00
北都留郡 計	1,301	652	11	1.69	2	0.31	0	0.00
町村計	122,813	47,302	1,151	2.43	700	1.48	144	0.30
合 計	840,774	332,903	8,296	2.49	3,867	1.16	985	0.30

2 現在の世帯の状況

(1) 現在の年齢

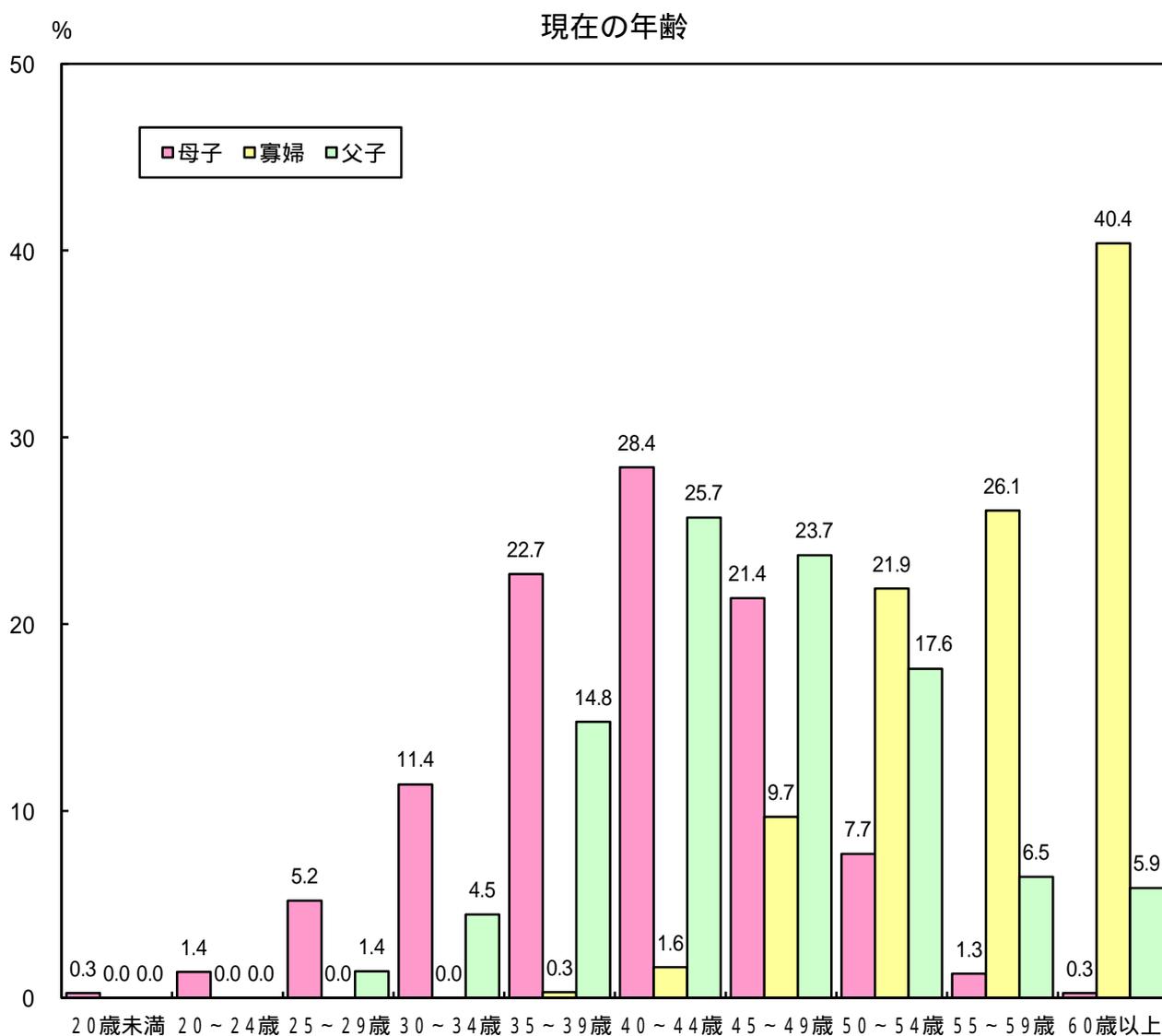
問) あなたの現在の年齢はおいくつですか。

母子世帯の母の年齢は、「40～44歳」(28.4%)が最も多く、以下「35～39歳」(22.7%)、「45～49歳」(21.4%)の順となっており、30歳代(34.1%)と40歳代(49.8%)で8割超と多数を占めている。

寡婦は、「60歳以上」(40.4%)が最も多く、以下「55～59歳」(26.1%)、「50～54歳」(21.9%)の順となっており、50歳以上(88.4%)が9割程度と多数を占めている。

父子世帯の父の年齢は、「40～44歳」(25.7%)が最も多く、以下「45～49歳」(23.7%)、「50～54歳」(17.6%)の順となっている。

前回から、寡婦、父子世帯の父に大きな変化はみられないが、母子世帯の母は40歳代の割合が増加(+10.5ポイント)する一方で、30歳代の割合が減少(-9.7ポイント)しており、高年齢化の傾向がみられる。



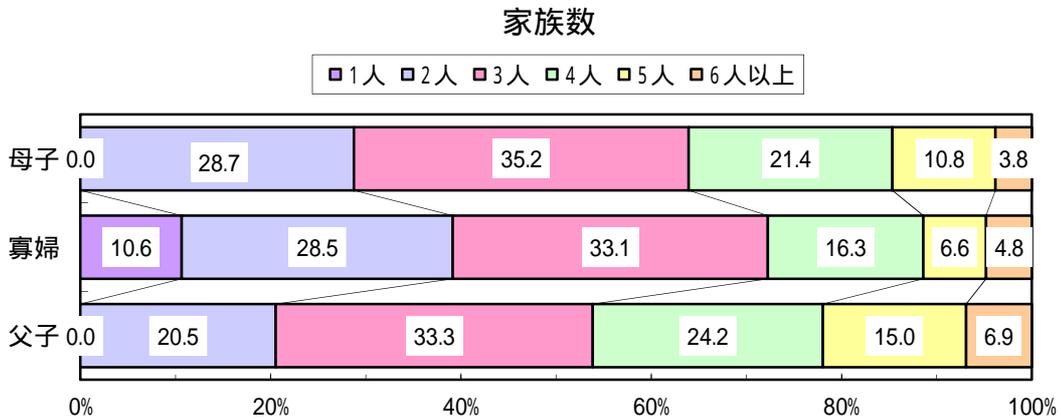
(注)「60歳以上」は、寡婦については60～65歳未満

(2) 家族数

問) あなたを含め、家族は全員で何人ですか(別居中のお子さんも含みます)。

全ての世帯区分で「3人」が最も多い(母子世帯35.2%、寡婦33.1%、父子世帯33.3%)が、父子世帯では他に比べて4人以上(46.1%)の割合が高くなっている。

平均家族数は、母子世帯が 3.26人、寡婦が 2.94人、父子世帯が 3.54人となっている。
(前回 母子世帯 3.38人、寡婦 2.84人、父子世帯 3.57人)



(3) 子どもの数

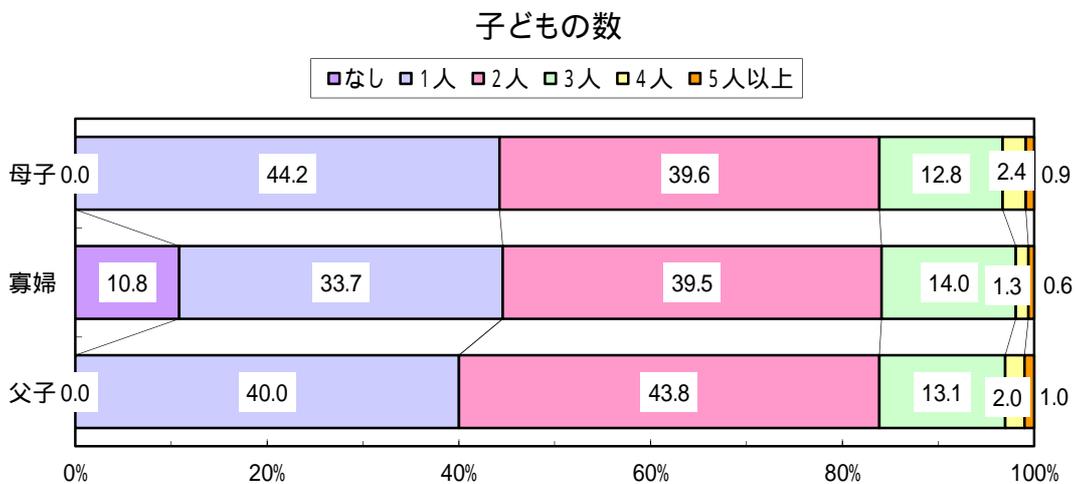
問) お子さんは何人ですか(別居中のお子さんも含みます)。

母子世帯では「1人」(44.2%)、寡婦、父子世帯では「2人」(各39.5%、43.8%)が最も多く、全ての世帯区分で2人以下の割合が8割超と多数を占めている。(前回から、母子世帯で「2人」の割合が微減(-4.3ポイント)となった。)

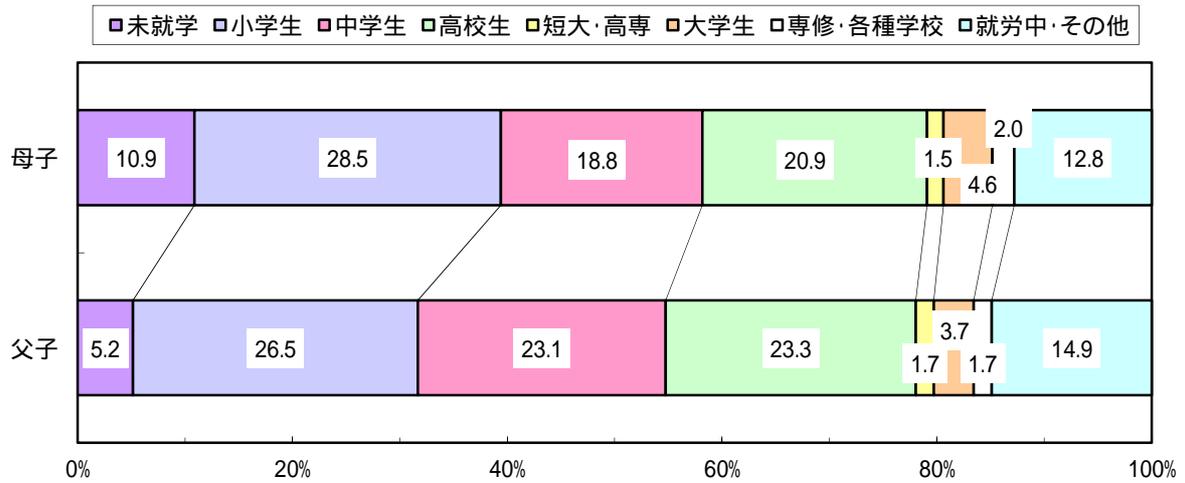
また、子どもの平均人数は母子世帯が 1.76人、寡婦が 1.63人、父子世帯が 1.80人となっている。(前回 母子世帯 1.79人、寡婦 1.62人、父子世帯 1.87人)

就学別では母子世帯、父子世帯ともに、「小学生」(各28.5%、26.5%)が最も多くなっている。

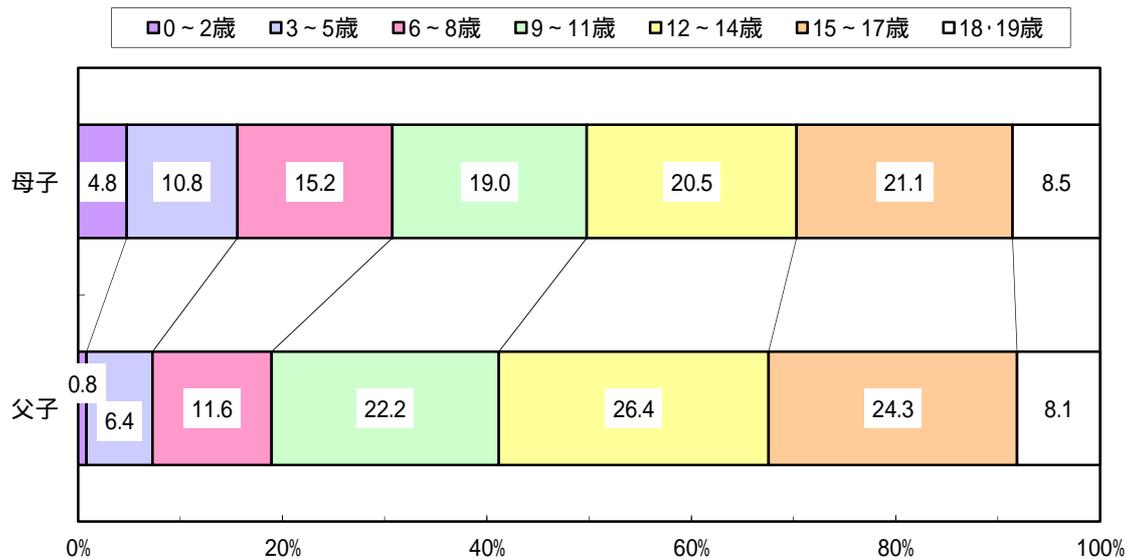
末子の年齢は、母子世帯は「15～17歳」(21.1%)が最も多く、父子世帯は「12～14歳」(26.4%)が最も多くなっている。



子どもの就学・就労状況別の人数



末子の年齢

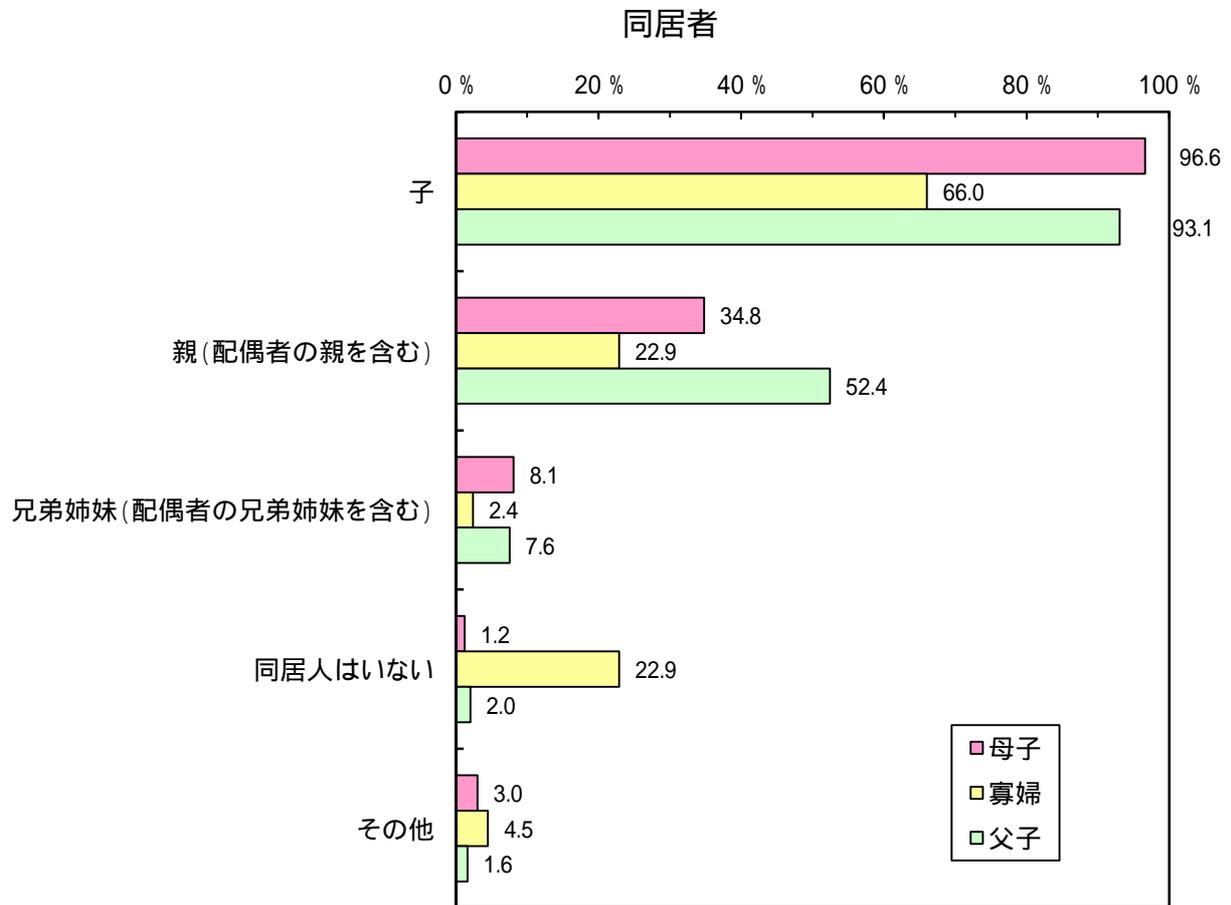


寡婦は、子どもがいないか20歳以上の子どもがいる者を対象としているため、掲載しない。

(4)同居者

どなたと同居していますか(該当するものすべて記入して下さい)。

全ての世帯区分で「子」(母子世帯96.6%、寡婦66.0%、父子世帯93.1%)が最も多い。寡婦では「同居人はいない」(22.9%)が、父子世帯では「親(配偶者の親を含む)」(52.4%)が、他の世帯に比べて多くなっている。



3 ひとり親家庭になった当時の状況

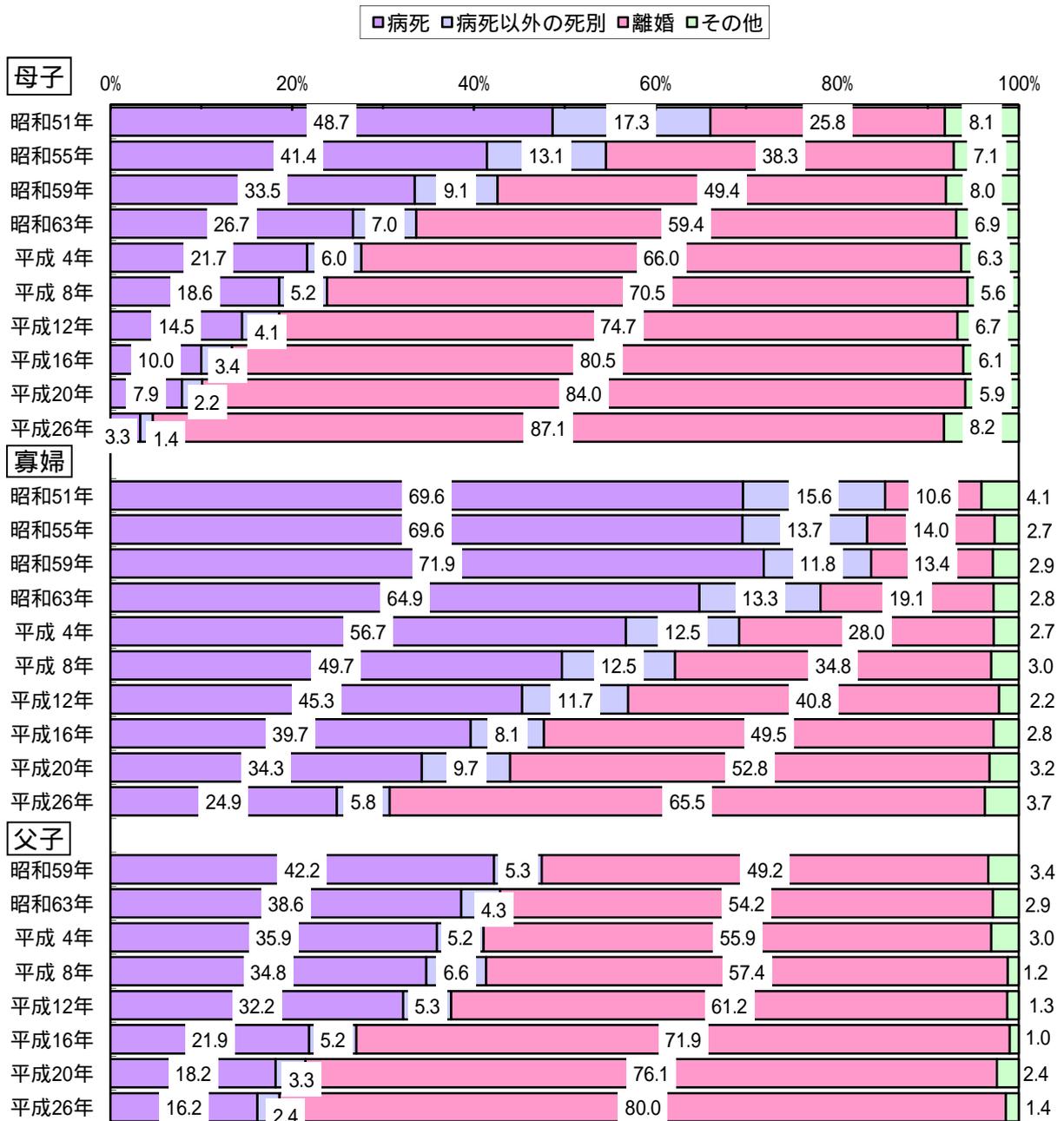
(1) ひとり親家庭になった原因

問) 母子世帯または父子世帯になられた原因はなんですか。

全ての世帯区分で「離婚」の割合が増加傾向にあり、母子世帯が87.1% (前回から + 3.1ポイント)、寡婦が65.5% (前回から + 12.7ポイント)、父子世帯が80.0% (前回から + 3.9ポイント)と多数を占めている。

一方で全ての世帯区分で「死別」の割合が減少傾向にあり、母子世帯が4.7% (前回から - 5.4ポイント)、寡婦が30.7% (前回から - 13.3ポイント)、父子世帯が18.6% (前回から - 2.9ポイント)となっている。

ひとり親家庭になった原因



病死以外の死別...交通事故死、その他の死亡 その他...遺棄、生死不明、未婚、DV(配偶者からの暴力)ほか

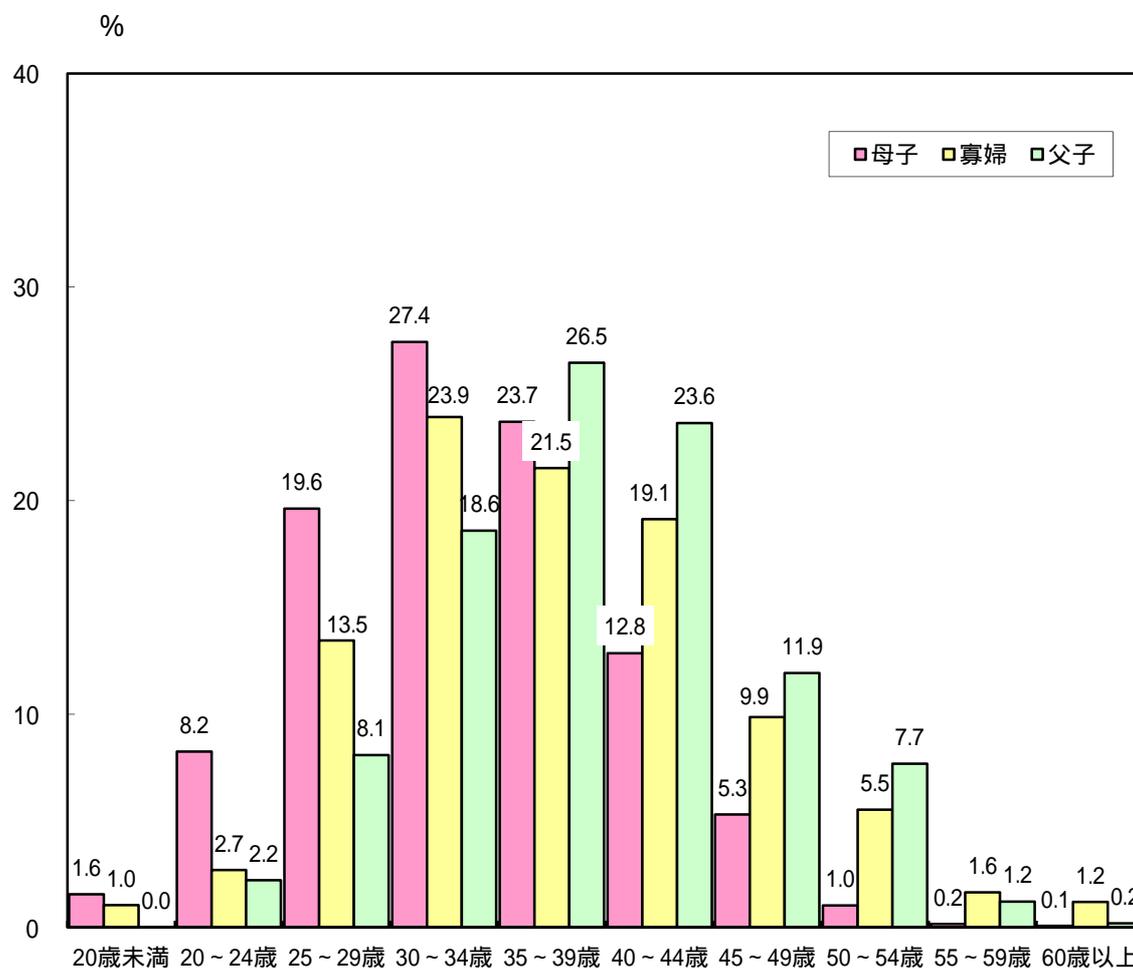
(2) 当時の年齢

問) その当時の年齢は、おいくつでしたか。

ひとり親家庭になった年齢は母子世帯、寡婦は「30～34歳」(各27.4%、23.9%)が最も多くなっている。父子世帯は「35～39歳」(26.5%)が最も多くなっている。(前回も同様の傾向がみられた。)

次いで母子世帯、寡婦が「35～39歳」(各23.7%、21.5%)、父子世帯が「40～44歳」(23.6%)となっている。母子世帯では20～34歳以下(55.2%)が過半数を占め、寡婦、父子世帯に比べ、20歳代から30歳代前半でひとり親家庭になった割合が高くなっている。

当時の年齢



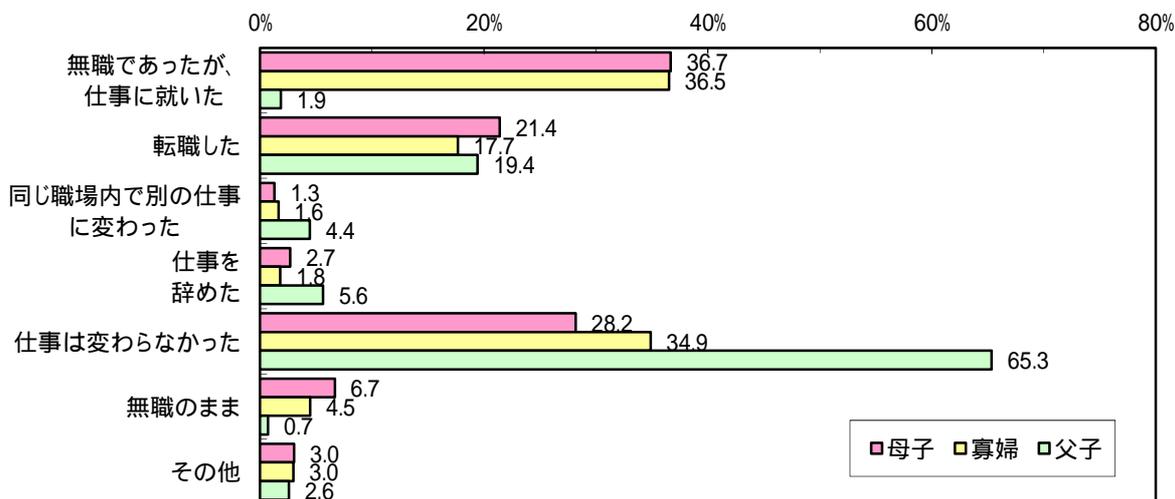
(注) 「60歳以上」は、寡婦については60～65歳未満

(3) 当時の就労状況の変化

問) その当時、母子世帯等になったことで、就労の状況は変わりましたか。

母子世帯、寡婦は「無職であったが、仕事に就いた」(各36.7%、36.5%)が最も多く、次いで「仕事は変わらなかった」(各28.2%、34.9%)となっている。
 父子世帯は、「仕事は変わらなかった」(65.3%)が最も多く、次いで「転職した」(19.4%)となっている。

当時の就労状況の変化

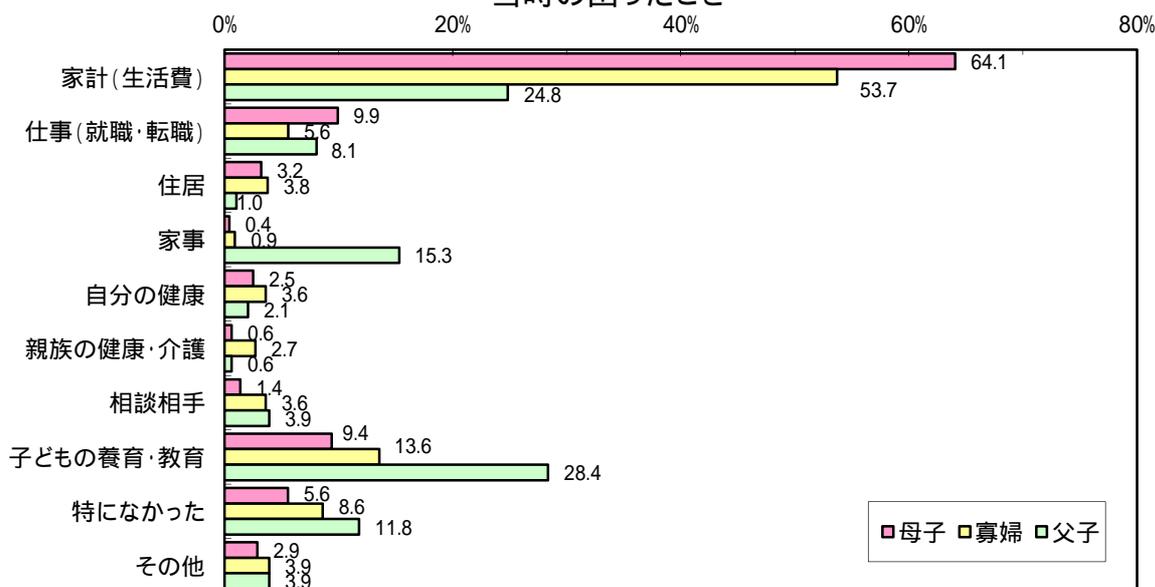


(4) 当時の困ったこと

問) その当時、お困りになった主なものはなんですか。

母子世帯、寡婦は「家計(生活費)」(各64.1%、53.7%)が過半数を占めているのに対し、父子世帯は「子どもの養育・教育」(28.4%)が最も多く、以下「家計(生活費)」(24.8%)、「家事」(15.3%)の順となっている。

当時の困ったこと



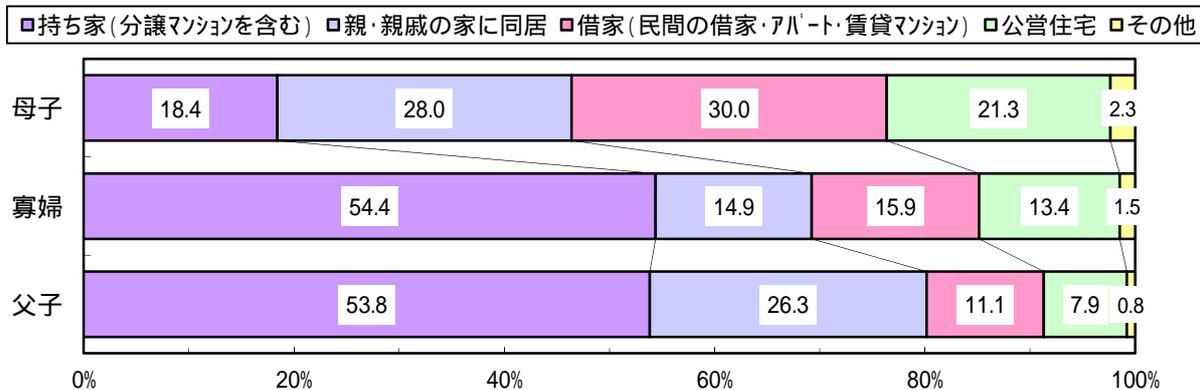
4 住居の状況

(1) 住居の形態

問) あなたの住居はどれですか。

寡婦、父子世帯は「持ち家」(各54.4%、53.8%)が最も多く、過半数を占めている。母子世帯では「借家」(30.0%)、「公営住宅」(21.3%)の合計割合が過半数を占め、賃貸住宅の割合が高くなっている。

住居の形態



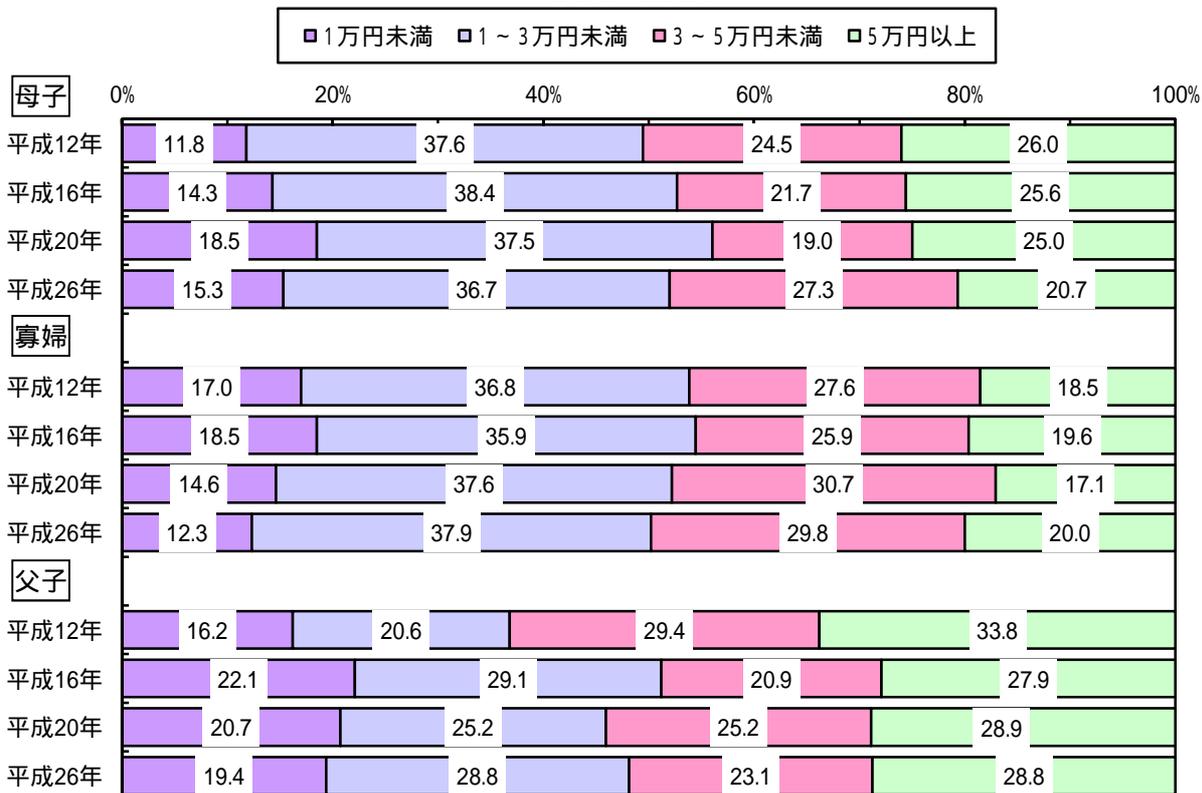
その他...社宅、母子生活支援施設ほか

(2) 家賃の月額

問) 月々の家賃はどれくらいですか。(持ち家以外の方のみ回答)

母子世帯、寡婦は「1～3万円未満」(各36.7%、37.9%)が最も多く、父子世帯は「1～3万円未満」「5万円以上」(28.8%)が最も多く、同率となっている。

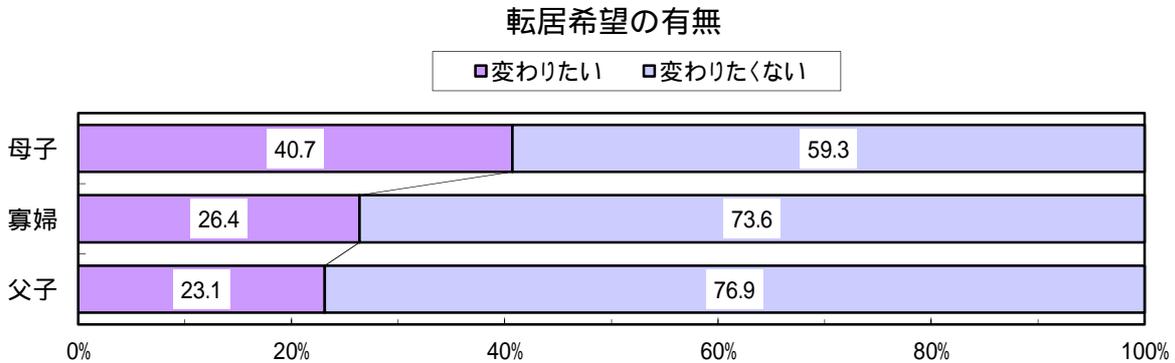
家賃の月額



(3) 転居希望の有無

問) 現在のお住まいを変わりたいと思いますか。

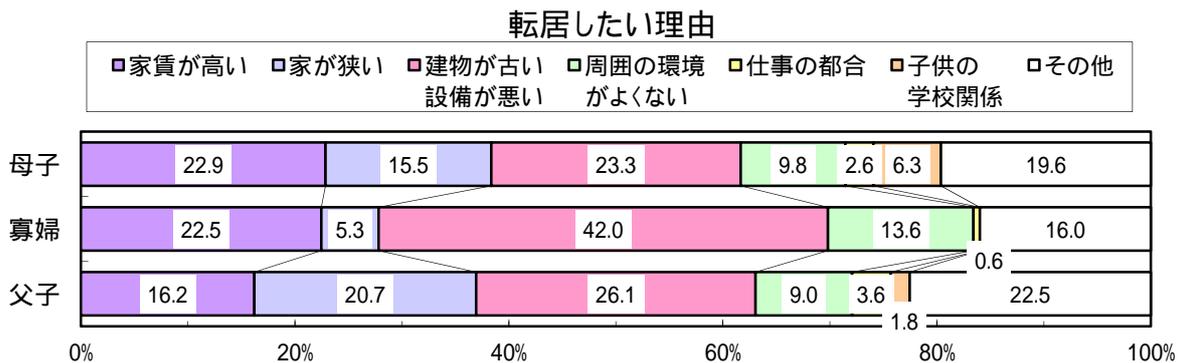
全ての世帯区分で「変わりたくない」(母子世帯59.3%、寡婦73.6%、父子世帯76.9%)が多くなっている。



(4) 転居したい理由

問) 現在のお住まいを変わりたい理由はなんですか。(転居希望がある方のみ回答)

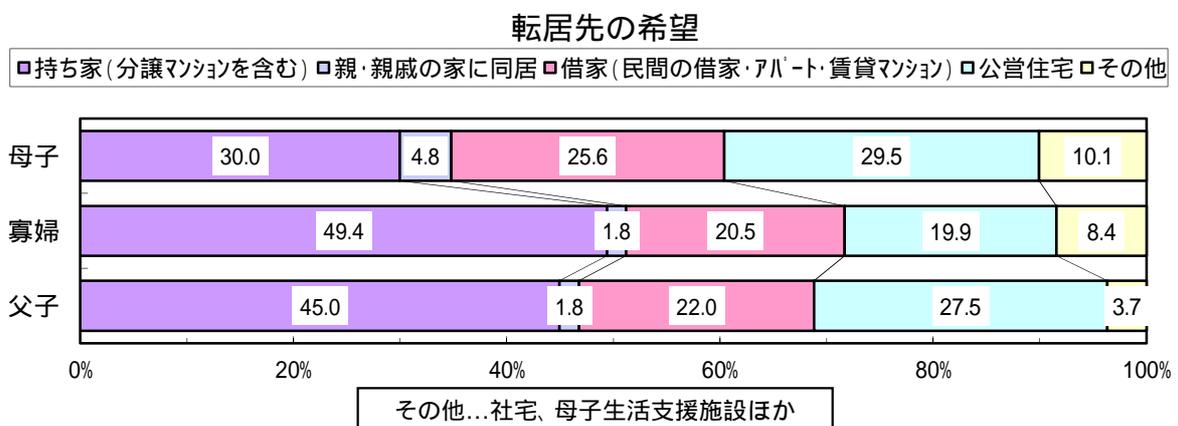
全ての世帯区分で「建物が古い、設備が悪い」(母子世帯23.3%、寡婦42.0%、父子世帯26.1%)が最も多くなっている。



(5) 転居先の希望

問) どのようなところへ変わりたいですか。(転居希望がある方のみ回答)

母子世帯では「持ち家」(30.0%)が最も多く、以下「公営住宅」(29.5%)、「借家」(25.6%)の順となっている。寡婦、父子世帯でも「持ち家」(各49.4%、45.0%)が最も多く、4割超を占めている。



5 就労の状況

(1) 現在の仕事の勤務形態

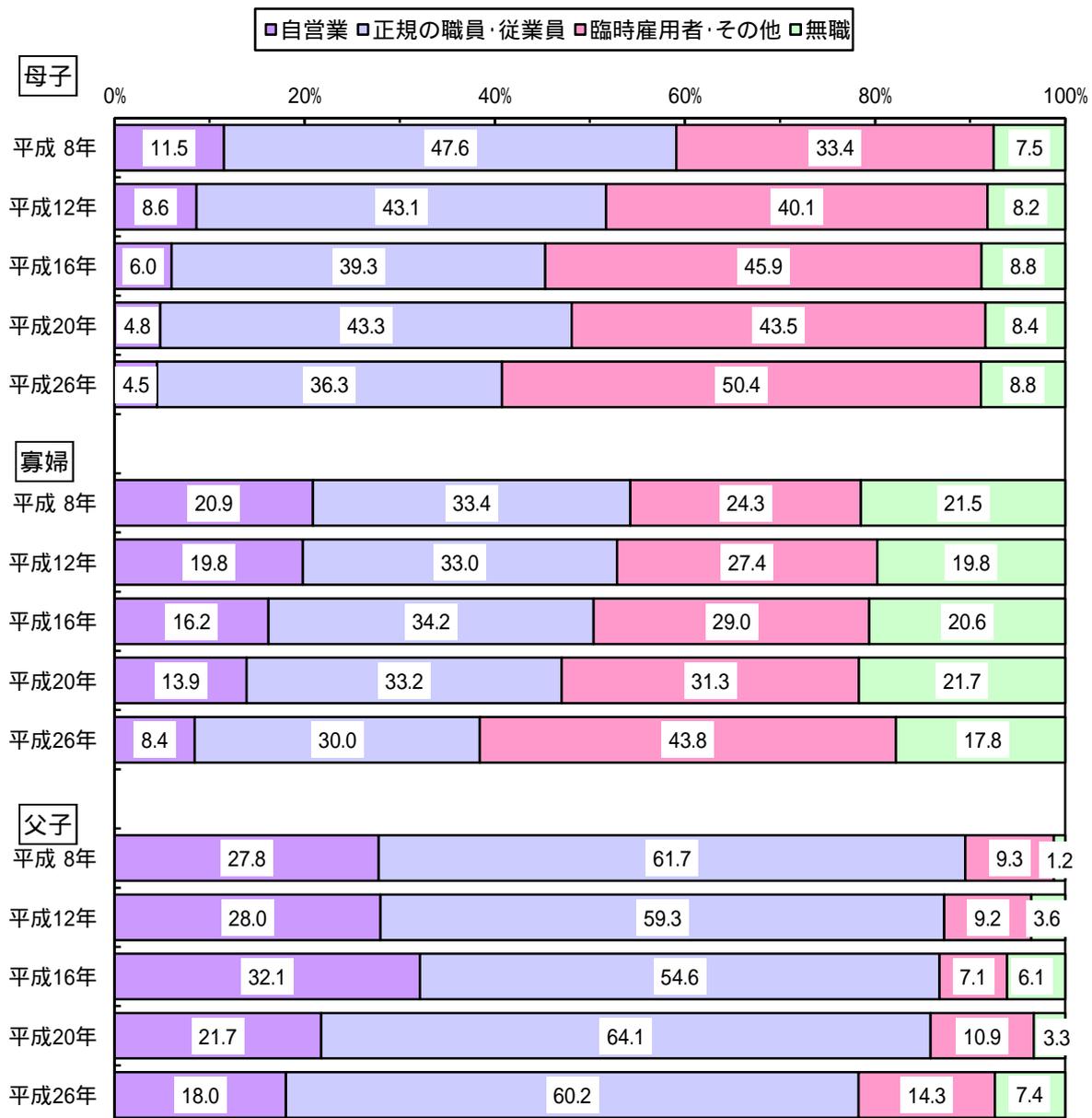
問) あなたの勤務形態はなんですか。

母子世帯、寡婦は「臨時雇用者・その他」(各50.4%、43.8%)が最も多く、次いで「正規の職員・従業員」(各36.3%、30.0%)となっている。父子世帯は「正規の職員・従業員」(60.2%)が6割程度と多数を占め、以下「自営業」(18.0%)、「臨時雇用者・その他」(14.3%)の順となっている。

「無職」の割合は、母子世帯が8.8%(前回から+0.4ポイント)、寡婦が17.8%(前回から-3.9ポイント)、父子世帯が7.4%(前回から+4.1ポイント)となっている。

前回から全ての世帯区分で「正規の職員・従業員」の割合が減少(母子世帯-7.0ポイント、寡婦-3.2ポイント、父子世帯-3.9ポイント)し、「臨時雇用者・その他」の割合が増加(各+6.9ポイント、+12.5ポイント、+3.4ポイント)している。「無職」の割合は、母子世帯で横ばい(+0.4ポイント)、寡婦で減少(-3.9ポイント)、父子世帯で増加(+4.1ポイント)している。

勤務形態

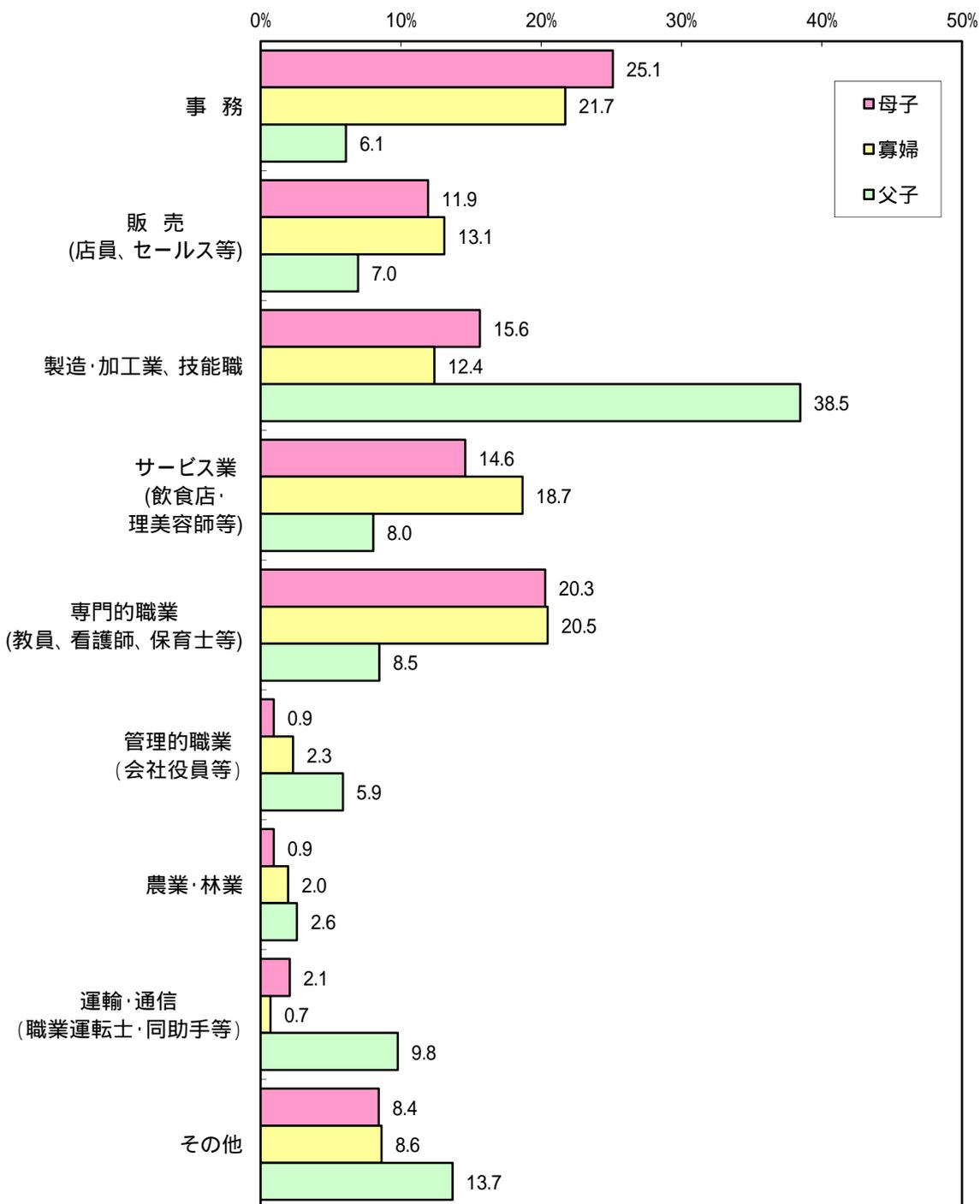


(2) 仕事の内容

問) あなたの現在の仕事の内容はなんですか。

母子世帯、寡婦では「事務」(各25.1%、21.7%)が最も多く、次いで「専門的職業」(各20.3%、20.5%)となっている。父子世帯は「製造・加工業、技能職」(38.5%)が最も多くなっている。

仕事の内容

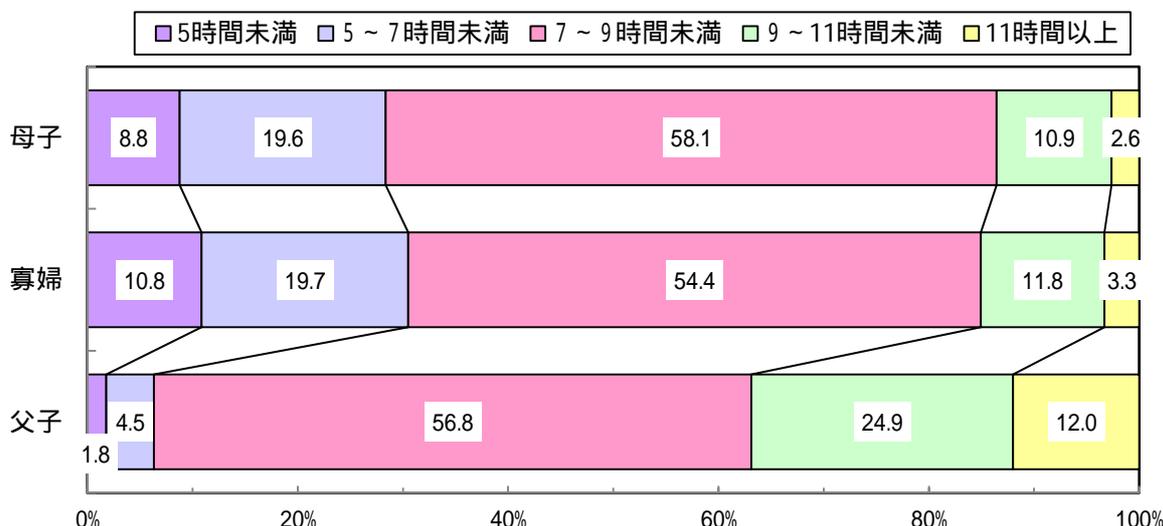


(3) 1日の平均労働時間

問) あなたの1日の労働時間は平均どれくらいですか。(無職以外の方のみ回答)

全ての世帯区分で「7～9時間未満」(母子世帯58.1%、寡婦54.4%、父子世帯56.8%)が過半数を占め最も多く、次いで母子世帯、寡婦では「5～7時間未満」(各19.6%、19.7%)、父子世帯では「9～11時間未満」(24.9%)となっている。父子世帯の9割超が7時間以上となっている。

1日の平均労働時間



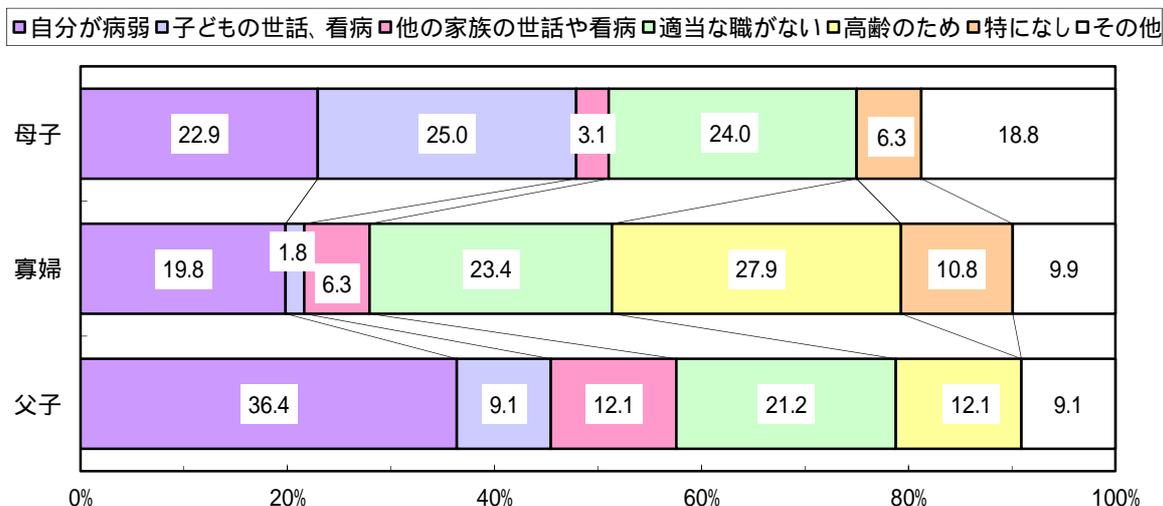
(4) 無職の理由(就労の妨げ)

問) あなたの就労の妨げになっている主なものはなんですか。(無職の方のみ回答)

母子世帯は「子どもの世話、看病」(25.0%)が最も多く、次いで「適当な職がない」(24.0%)となっている。寡婦は「高齢のため」(27.9%)が最も多く、次いで「適当な職がない」(23.4%)となっている。父子世帯は「自分が病弱」(36.4%)が最も多く、次いで「適当な職がない」(21.2%)となっている。

前回から父子世帯は「適当な職がない」の割合が大幅に減少(-22.6ポイント)し、「子どもの世話、看病」、「他の家族の世話や看病」の合計割合が大幅に増加(+14.9ポイント)している。

就労の妨げ



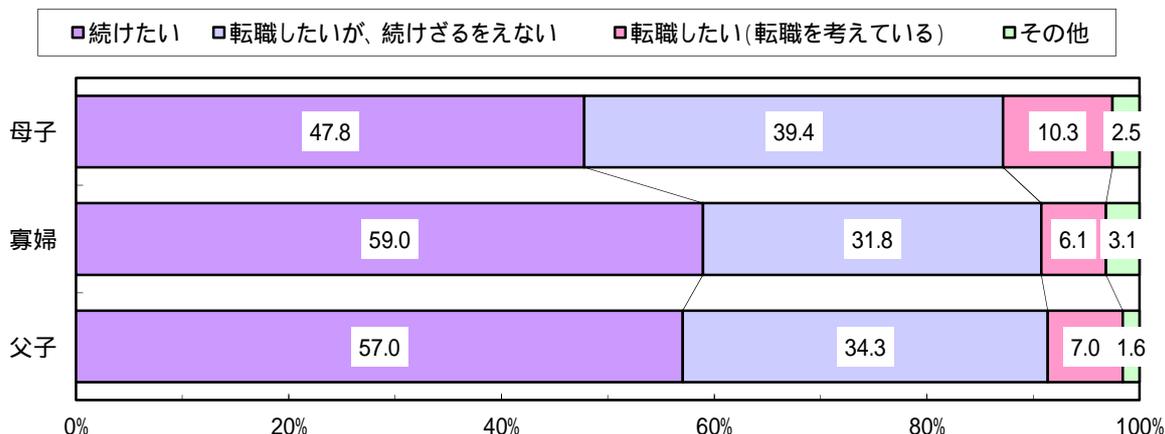
母子世帯の「高齢のため」、父子世帯の「特になし」は0%

(5) 現在の仕事の意向

問) あなたは今の仕事についてどう考えていますか。(無職以外の方のみ回答)

母子世帯では、「続けたい」(47.8%)と転職希望者(「転職したいが、続けざるをえない」、「転職したい」の合計)(49.7%)の割合が同程度となっている。寡婦、父子世帯では「続けたい」(各59.0%、57.0%)が6割程度と多くなっている。前回から全ての世帯区分で「続けたい」の割合が減少し、転職希望者の割合が増加している。

現在の仕事の意向

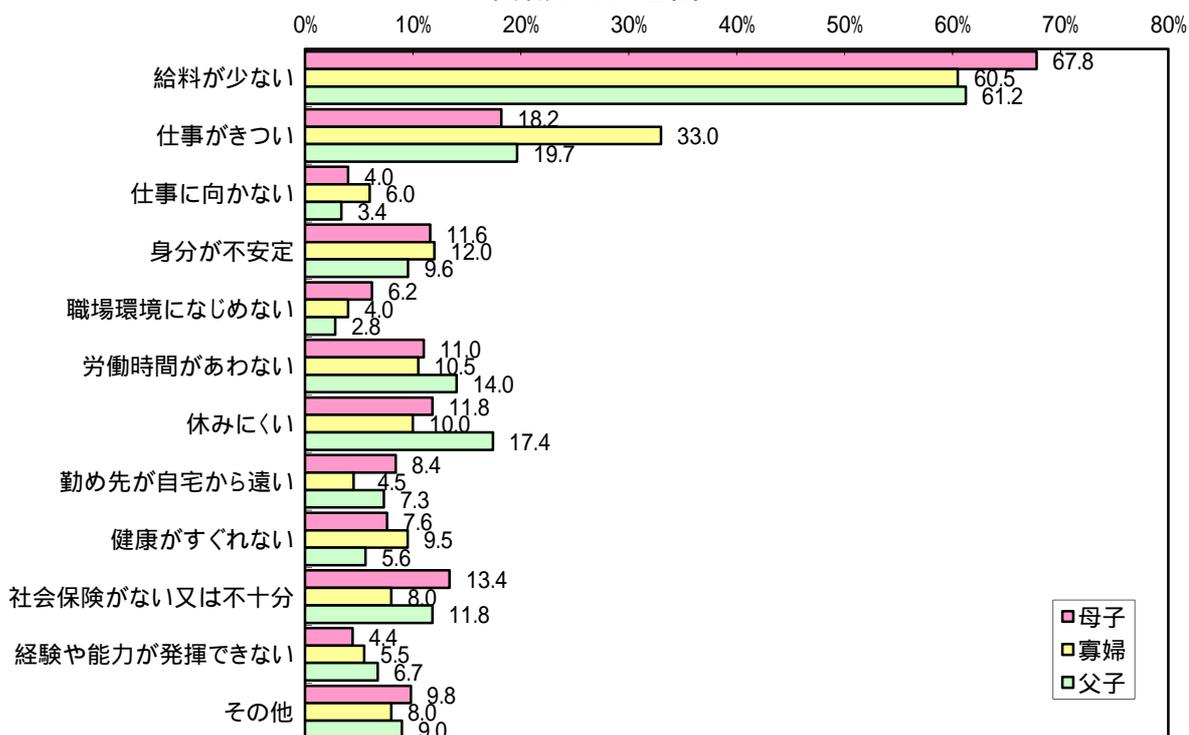


(6) 転職したい理由

問) 転職したい主な理由は何ですか。(2つ以内)
(5の(5)で転職したい()を回答した方のみ回答)

全ての世帯区分で「給料が少ない」(母子世帯67.8%、寡婦60.5%、父子世帯61.2%)が最も多く、次いで「仕事がつい」(各18.2%、33.0%、19.7%)となっている。

転職したい理由

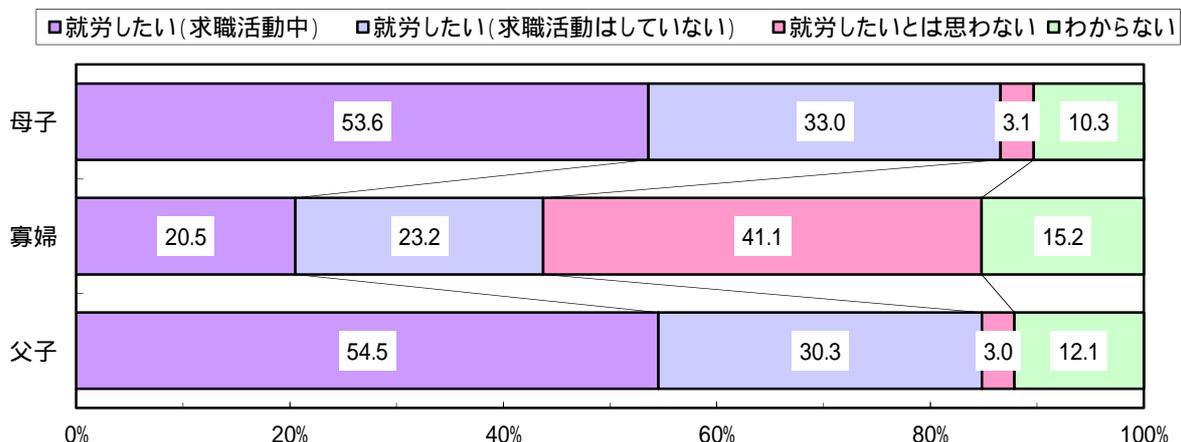


(7) 今後の就労意向

問) あなたは今後、就労したいと思いますか。(無職の方のみ回答)

母子世帯、父子世帯は「就労したい(求職活動中)」(各53.6%、54.5%)、「就労したい(求職活動はしていない)」(各33.0%、30.3%)となっており、現在無職の方の8割超に就労意向がある。一方、寡婦は「就労したいとは思わない」(41.1%)が最も多く、就労意向のある方は4割程度となっている。

今後の就労意向

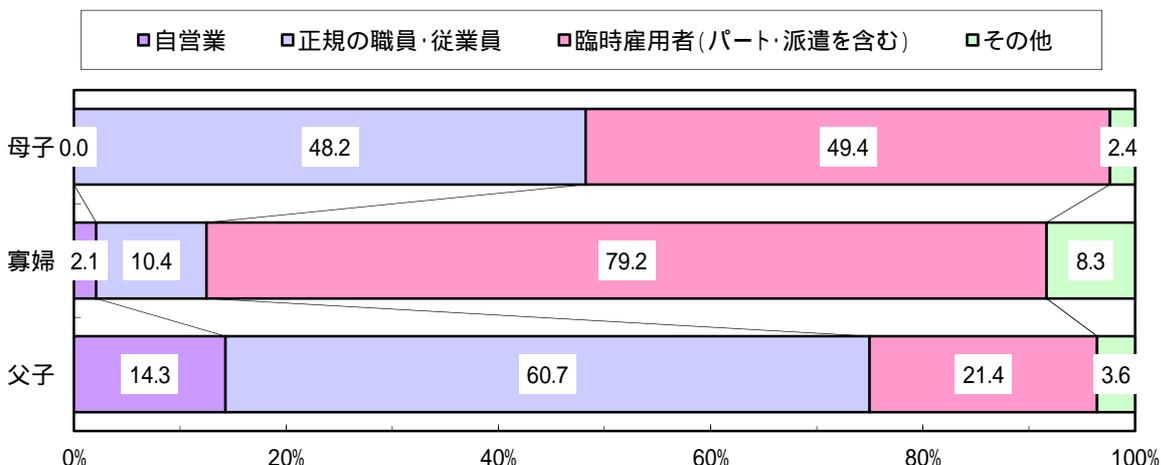


(8) 希望する勤務形態

問) あなたは、どんな勤務形態で就労したいと思いますか。
(5の(7)で就労意向を持つ()を回答した方のみ回答)

母子世帯は「臨時雇用者」(49.4%)、「正規の職員・従業員」(48.2%)がそれぞれ半数程度となっている。寡婦は「臨時雇用者」(79.2%)が8割程度と多数を占めている。父子世帯は「正規の職員・従業員」(60.7%)が6割程度と最も多く、次いで「臨時雇用者」(21.4%)となっている。前回から全ての世帯区分で「正規の職員・従業員」が減少(母子世帯 - 9.9ポイント、寡婦 - 12.5ポイント、父子世帯 - 19.3ポイント)し、「臨時雇用者」が増加(各 + 12.9ポイント、+ 22.9ポイント、+ 11.4ポイント)している。

希望する勤務形態



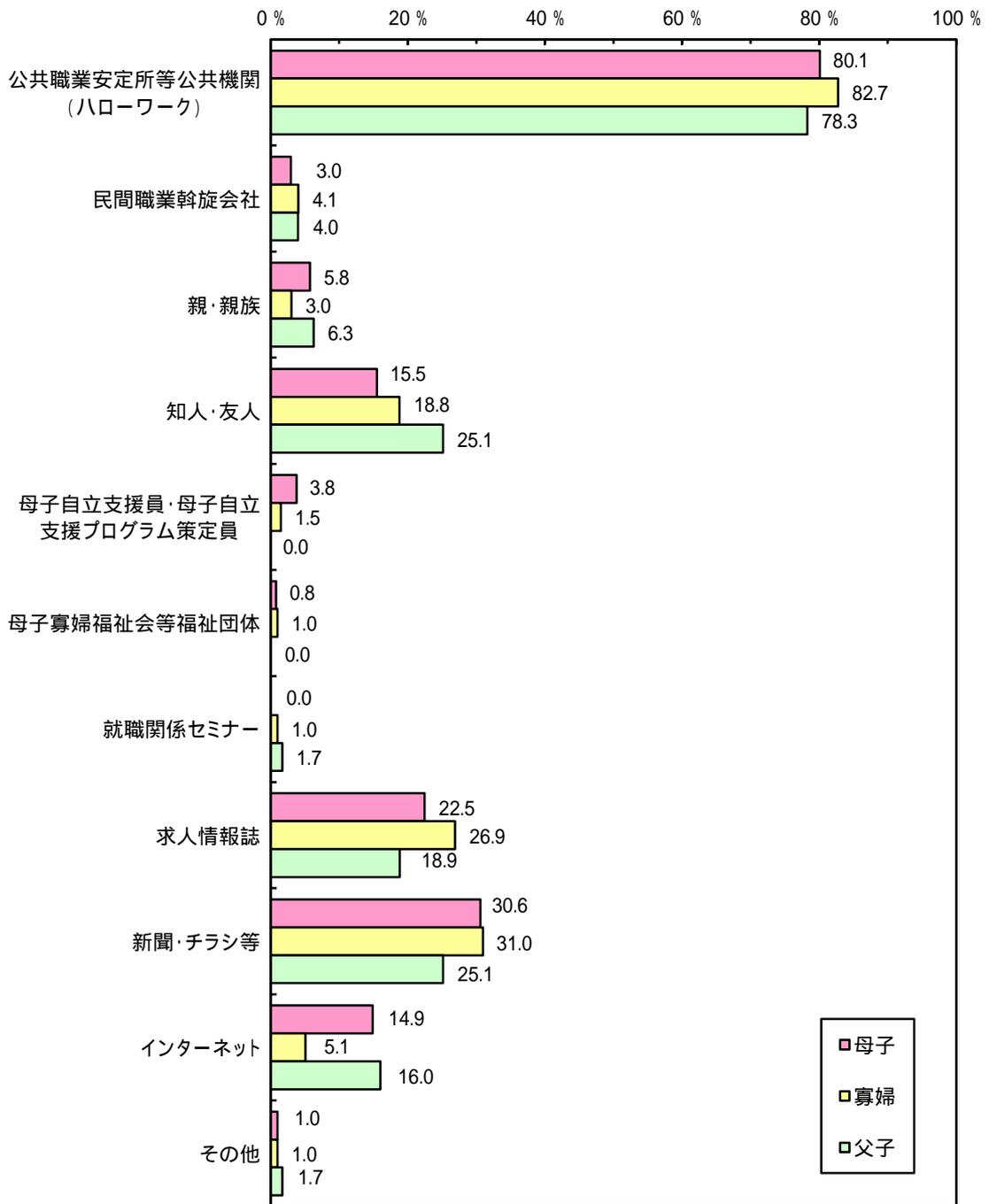
母子世帯の「自営業」は0%、その他・・・内職、家族従業者(家事手伝い)ほか

(9) 転職先を探す方法や相談相手

問) 転職する場合、就職先を探す方法や相談する相手はなんですか。(2つ以内)
 (5の(5)で転職したい()を回答した方のみ回答)

全ての世帯区分で「公共職業安定所等公共機関(ハローワーク)」(母子世帯80.1%、寡婦82.7%、父子世帯78.3%)が最も多く8割程度を占め、「新聞・チラシ等」(各30.6%、31.0%、25.1%)、「求人情報誌」(各22.5%、26.9%、18.9%)、「知人・友人」(各15.5%、18.8%、25.1%)の割合が高くなっている。

転職先を探す方法や相談相手

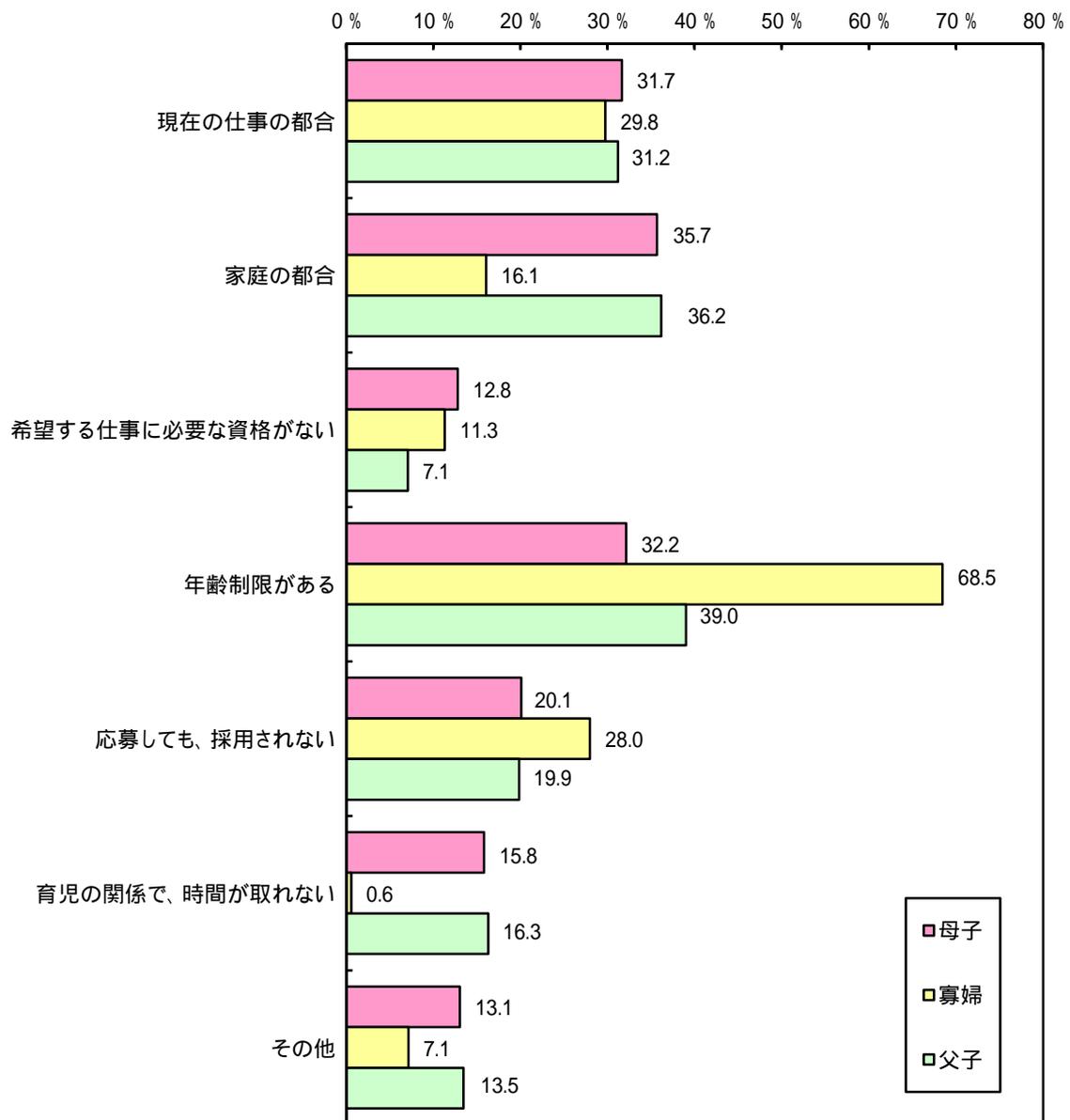


(10) 現在の仕事を続けざるをえない理由

問) 続けざるをえない主な理由は何ですか。(2つ以内)
 (5の(5)で「転職したいが続けざるをえない」を回答した方のみ回答)

母子世帯は「家庭の都合」(35.7%)が最も多く、以下「年齢制限がある」(32.2%)、「現在の仕事の都合」(31.7%)の順となっている。寡婦は「年齢制限がある」(68.5%)が7割程度と多数を占めている。父子世帯は「年齢制限がある」(39.0%)が最も多く、以下「家庭の都合」(36.2%)、「現在の仕事の都合」(31.2%)の順となっている。

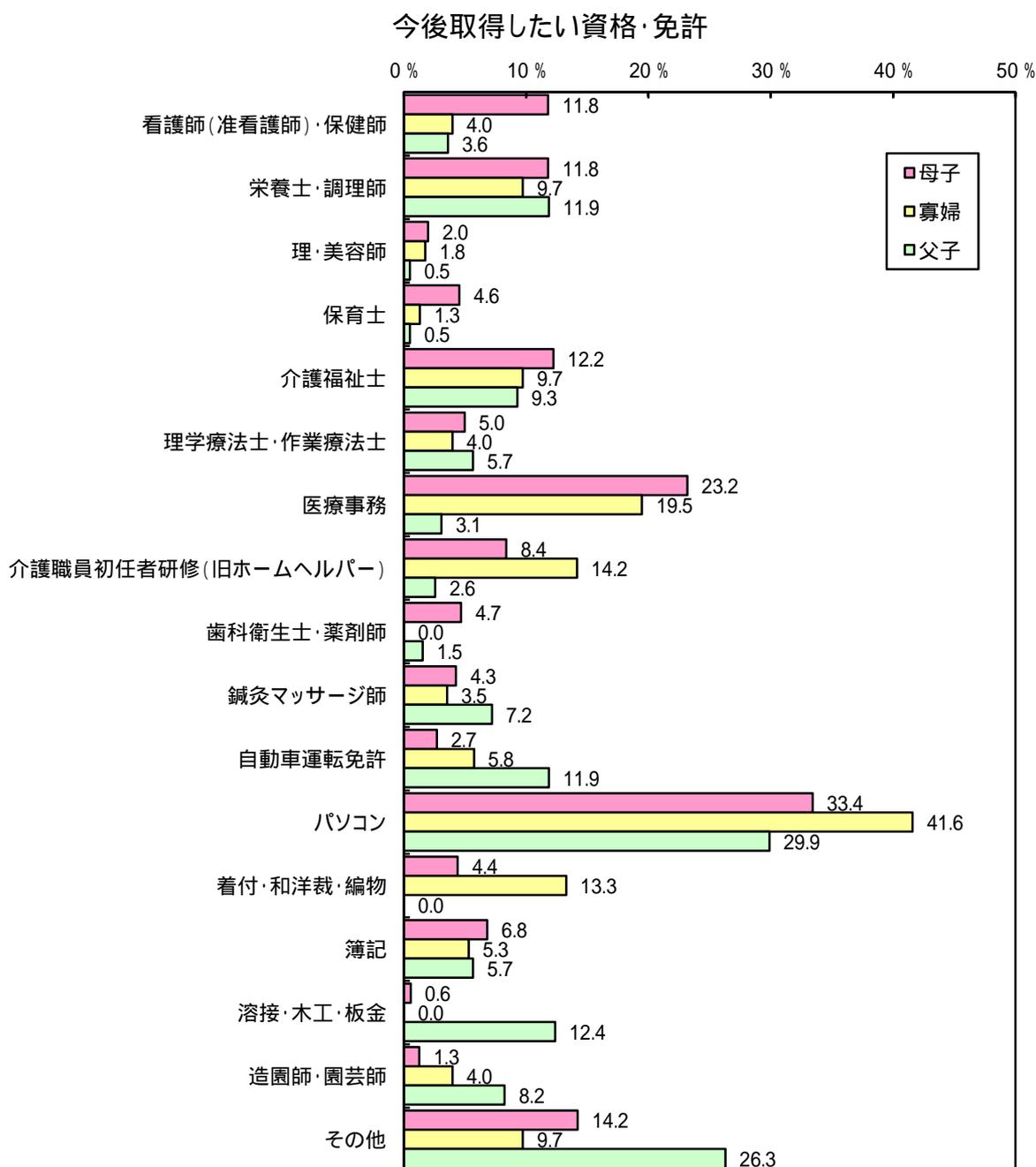
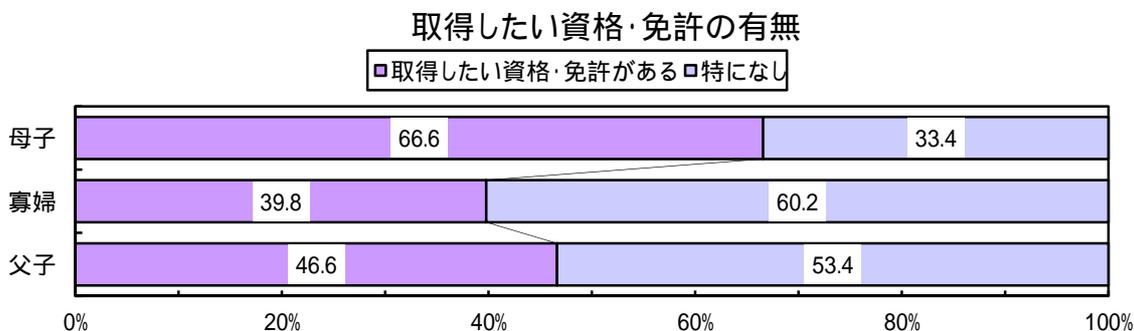
現在の仕事を続けざるをえない理由



(11) 今後取得したい資格・免許

問) 今後取得したい資格・免許はなんですか。(2つ以内)

母子世帯は「取得したい資格・免許がある」(66.6%)が6割超を占めているのに対し、寡婦、父子世帯では4割程度(各39.8%、46.6%)となっている。取得したい資格・免許は、全ての世帯区分で「パソコン」(母子世帯33.4%、寡婦41.6%、父子世帯29.9%)が最も多くなっている。



6 家計の状況

(1) 世帯の年間収入

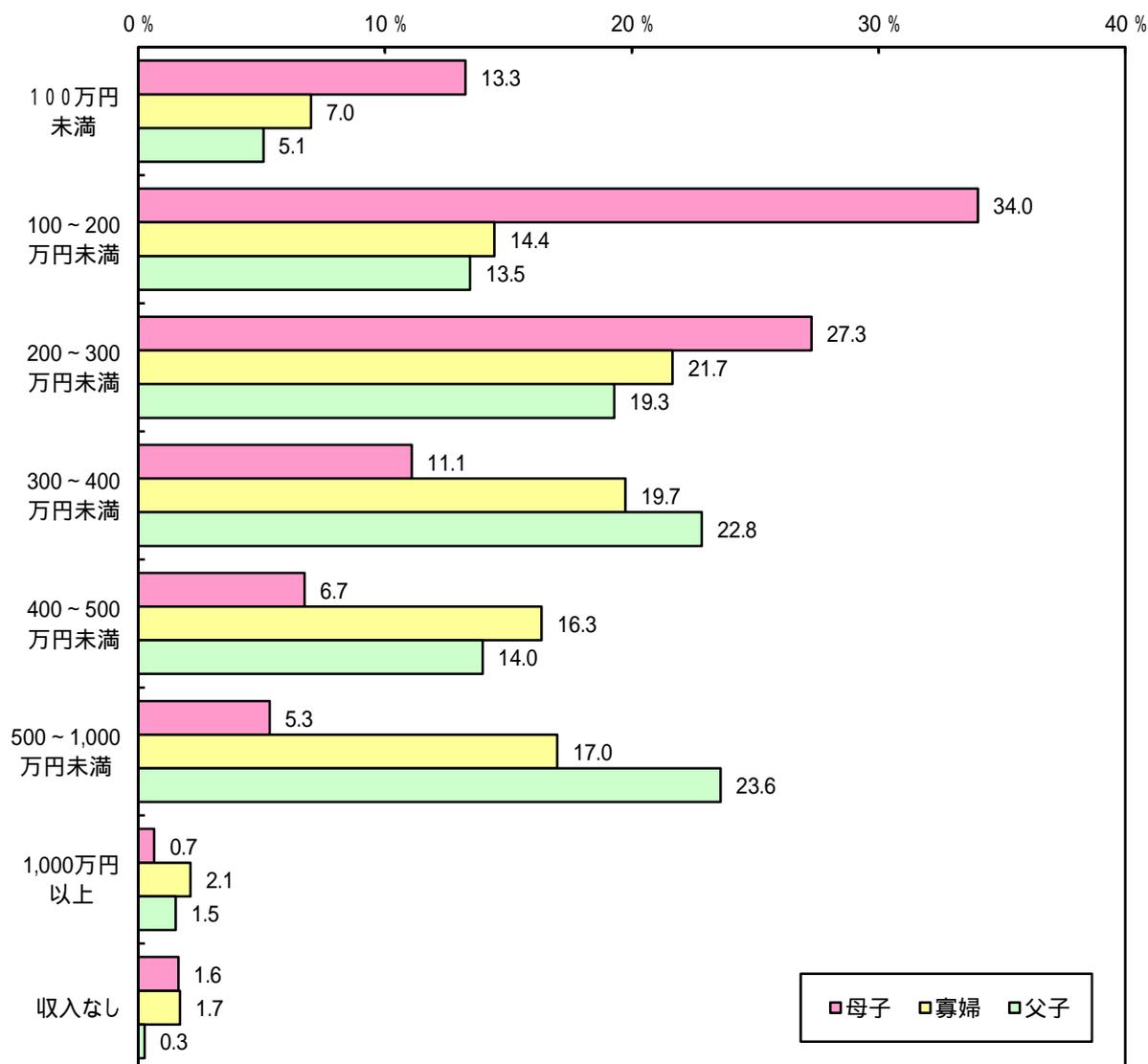
問) 1年間の総収入(税込)はどれくらいですか。(世帯全員の合計収入)

母子世帯は「100～200万円未満」(34.0%)が最も多く、以下「200～300万円未満」(27.3%)、「100万円未満」(13.3%)の順となっており、収入のない方を含み300万円未満(76.2%)が7割超と多数を占めている。寡婦は「200～300万円未満」(21.7%)が最も多く、次いで「300～400万円未満」(19.7%)となっている。父子世帯は「500～1,000万円未満」(23.6%)が最も多く、次いで「300～400万円未満」(22.8%)となっている。

母子世帯の年間収入が他に比べて低い結果となっている。

なお、1世帯あたりの年間収入の平均は母子世帯では約240万円、寡婦では約370万円、父子世帯では約405万円となっている。(前回 母子世帯 約211万円、寡婦 約327万円、父子世帯 約440万円)

世帯の年間収入



(2) 自身の年間収入

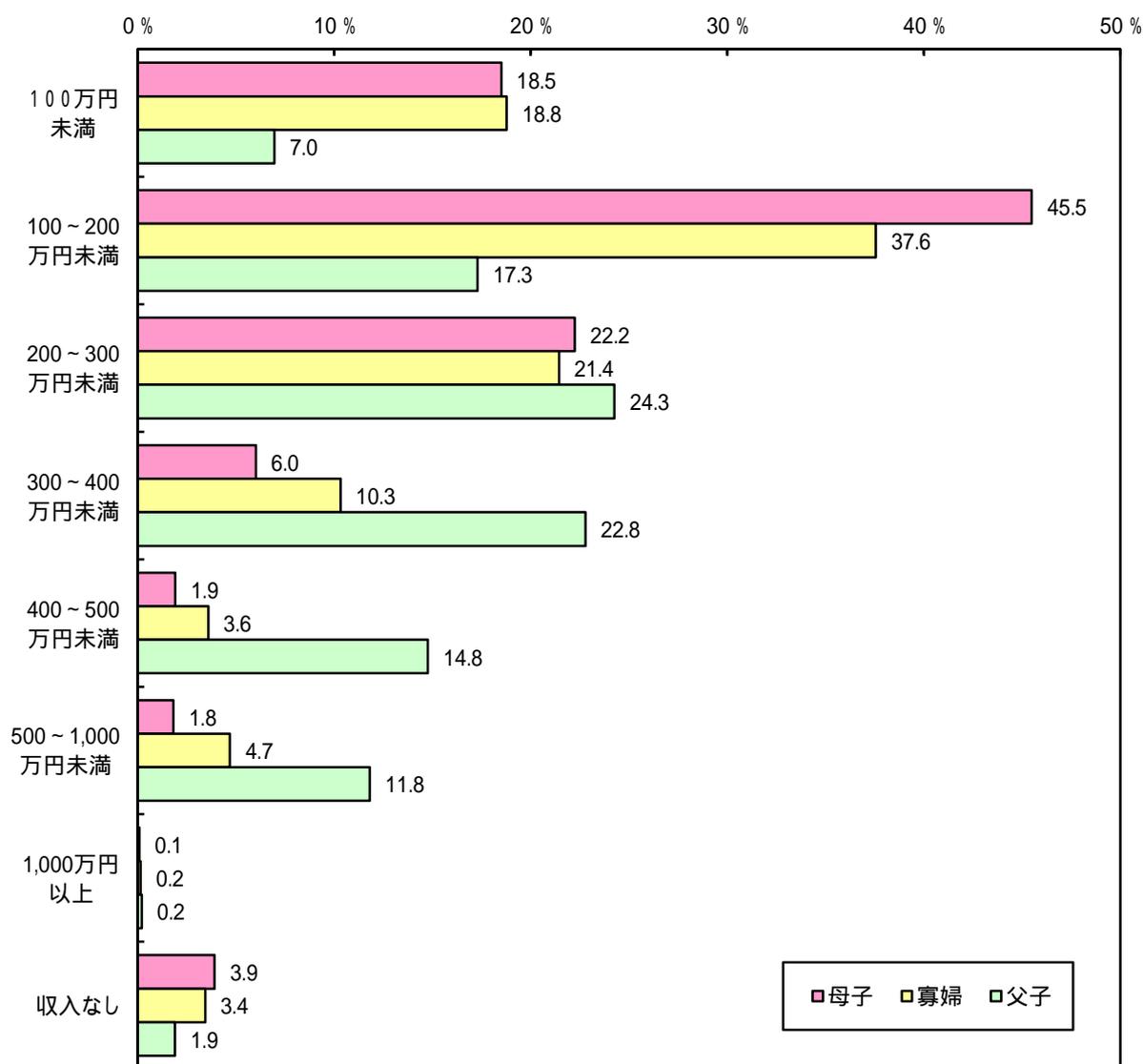
問) 1年間の総収入(税込)はどれくらいですか。(あなた自身の収入)

母子世帯の母、寡婦は「100～200万円未満」(各45.5%、37.6%)が最も多く、以下「200～300万円未満」(各22.2%、21.4%)、「100万円未満」(各18.5%、18.8%)の順となっており、収入のない方を含み300万円未満(各90.1%、81.2%)が多数を占めている。父子世帯の父は「200～300万円未満」(24.3%)が最も多く、以下「300～400万円未満」(22.8%)、「100～200万円未満」(17.3%)の順となっている。

母子世帯の母、寡婦の年間収入が父子世帯の父に比べて低い結果となっている。

なお、自身の年間収入の平均は母子世帯の母では約176万円、寡婦では約208万円、父子世帯の父では約326万円となっている。

自身の年間収入



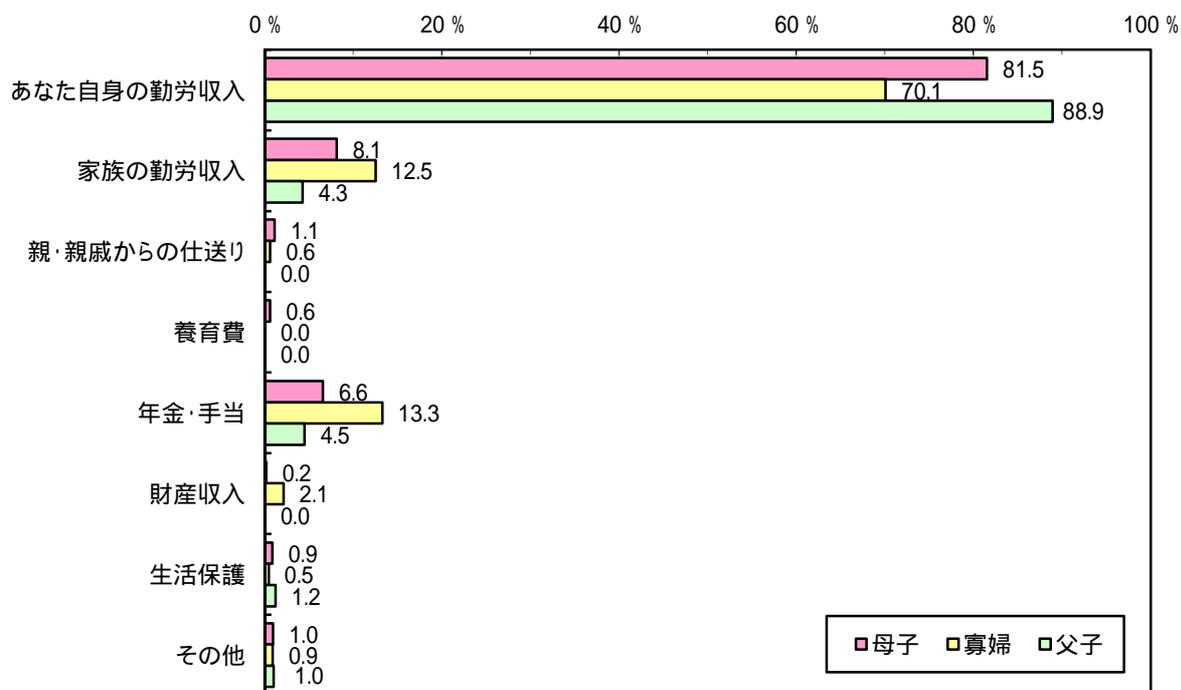
(3) 主な収入源

問) 主な収入源はなんですか。

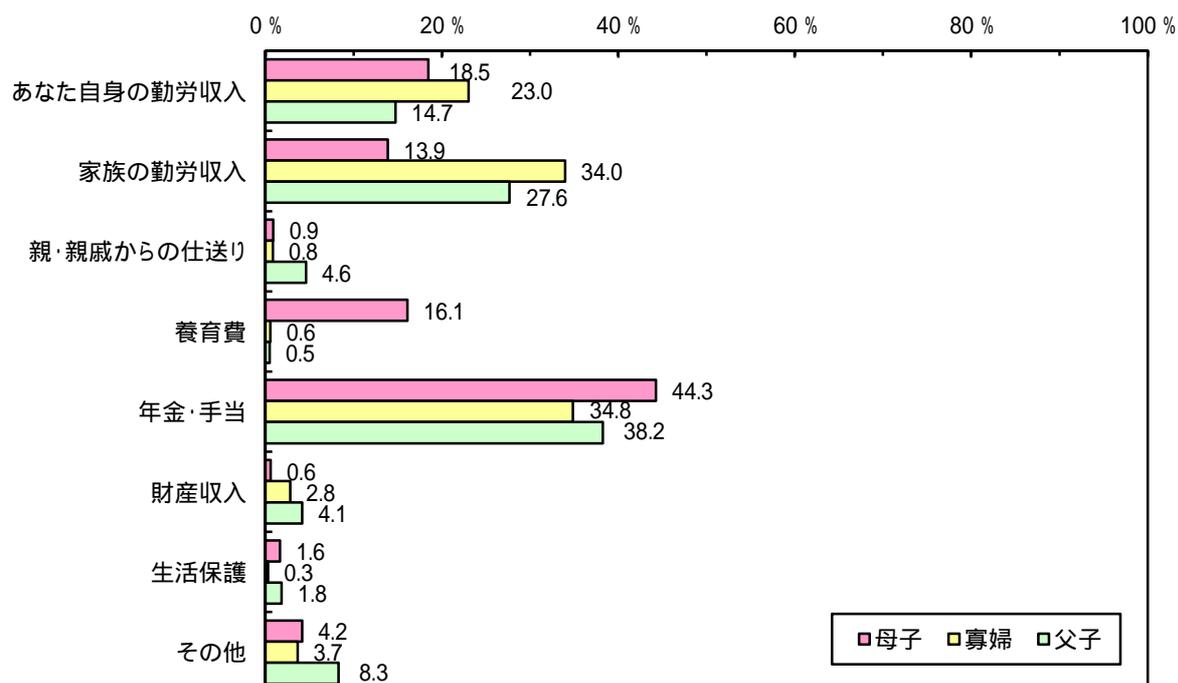
全ての世帯区分で「あなた自身の勤労収入」(母子世帯81.5%、寡婦70.1%、父子世帯88.9%)が7～9割程度と多数を占めている。

2番目の収入では全ての世帯区分で「年金・手当」(各44.3%、34.8%、38.2%)が最も多くなっている。母子世帯では他に比べて「養育費」(16.1%)の割合が高くなっている。また、児童扶養手当の父子世帯への支給拡大を主因に、父子世帯では前回と比べ「年金・手当」(38.2%)の割合が増加(+16.3ポイント)している。

主な収入源(1番目の収入)



主な収入源(2番目の収入)

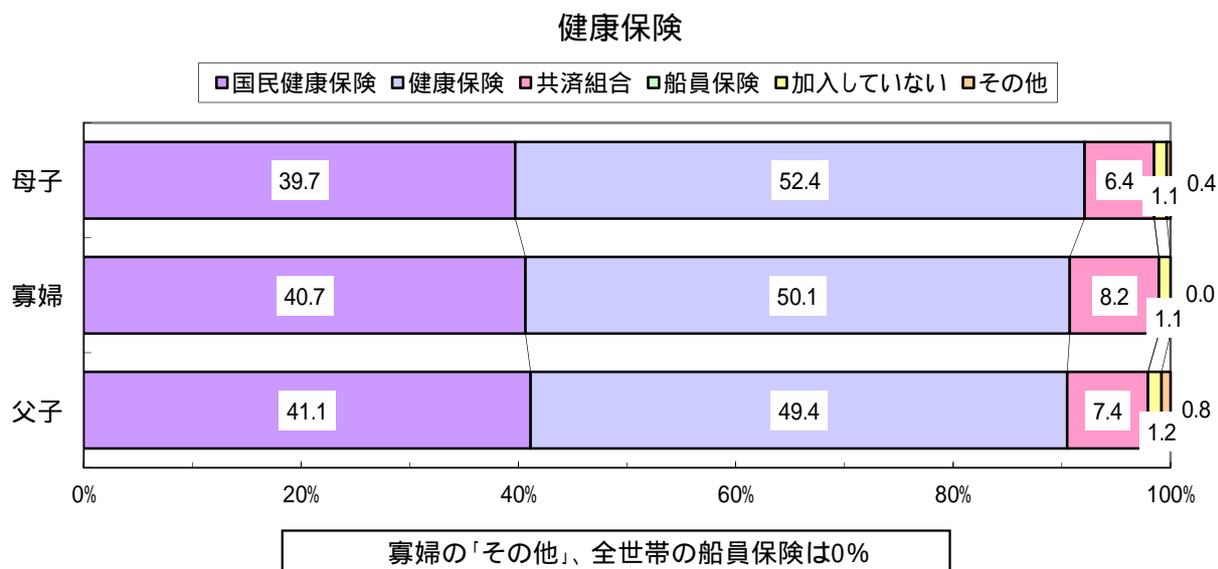


7 社会保険の加入状況

(1) 健康保険

問) あなたが加入している健康保険はどれですか。

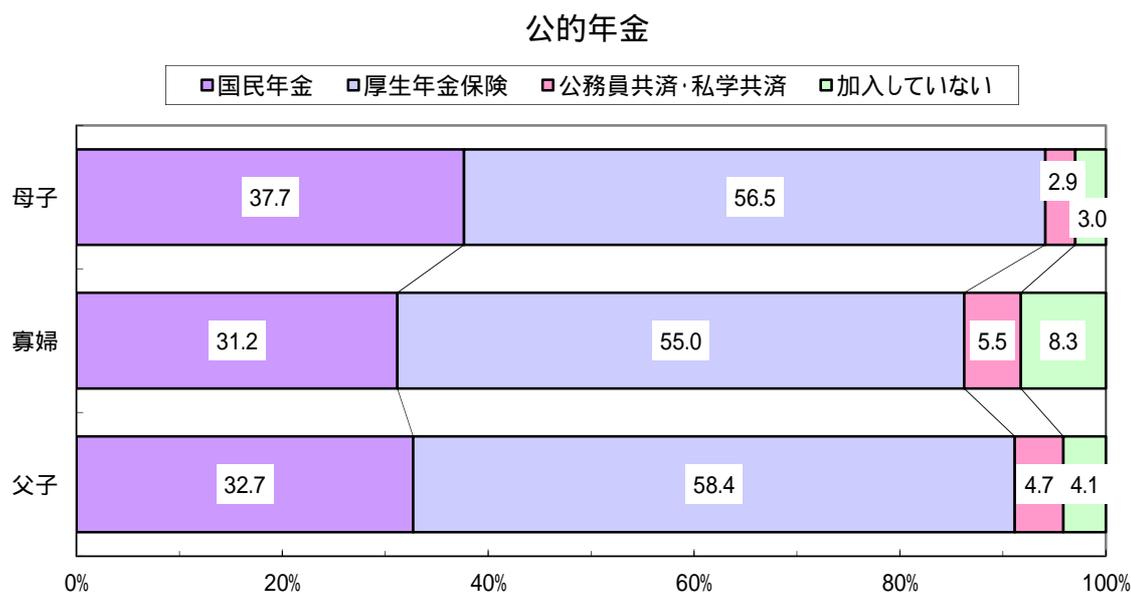
全ての世帯区分で「健康保険」(母子世帯52.4%、寡婦50.1%、父子世帯49.4%)が半数程度と最も多く、次いで「国民健康保険」(各39.7%、40.7%、41.1%)となっている。



(2) 公的年金

問) あなたが加入している公的年金はどれですか。

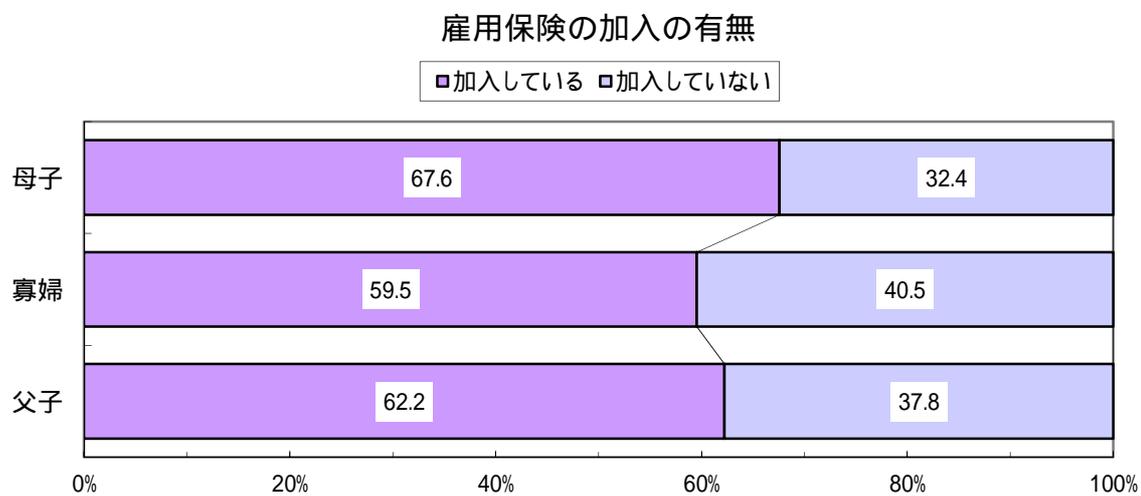
全ての世帯区分で「厚生年金保険」(母子世帯56.5%、寡婦55.0%、父子世帯58.4%)が半数程度と最も多く、次いで「国民年金」(各37.7%、31.2%、32.7%)となっている。



(3) 雇用保険

問) あなたは、雇用保険に加入していますか。

全ての世帯区分で「加入している」(母子世帯67.6%、寡婦59.5%、父子世帯62.2%)が6割程度と多数を占めている。



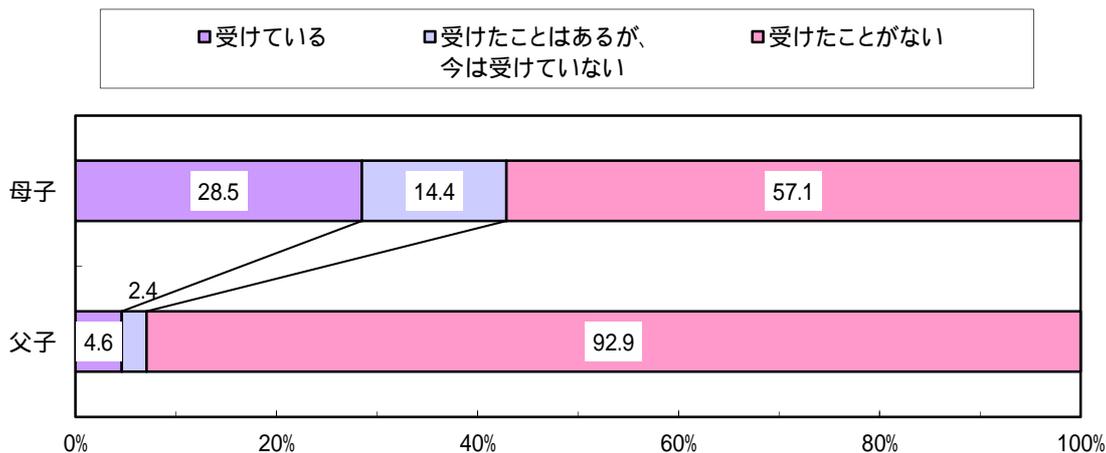
8 養育費の状況

(1) 養育費の月額等

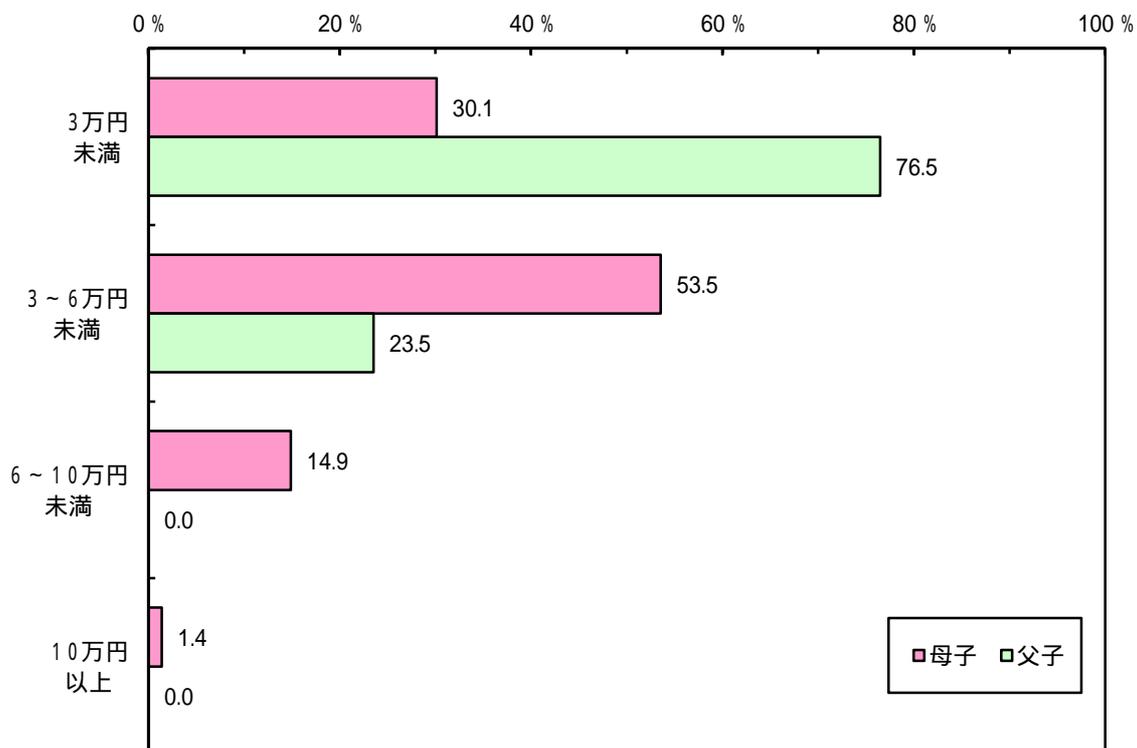
問) 離婚した配偶者から養育費の支払いを月平均でいくら受けていますか。

養育費を受けている方は、母子世帯で28.5%、父子世帯で4.6%にとどまっております。その月額は、母子世帯では「3～6万円未満」(53.5%)、父子世帯では「3万円未満」(76.5%)が最も多くなっています。

養育費の受給状況



養育費の月額



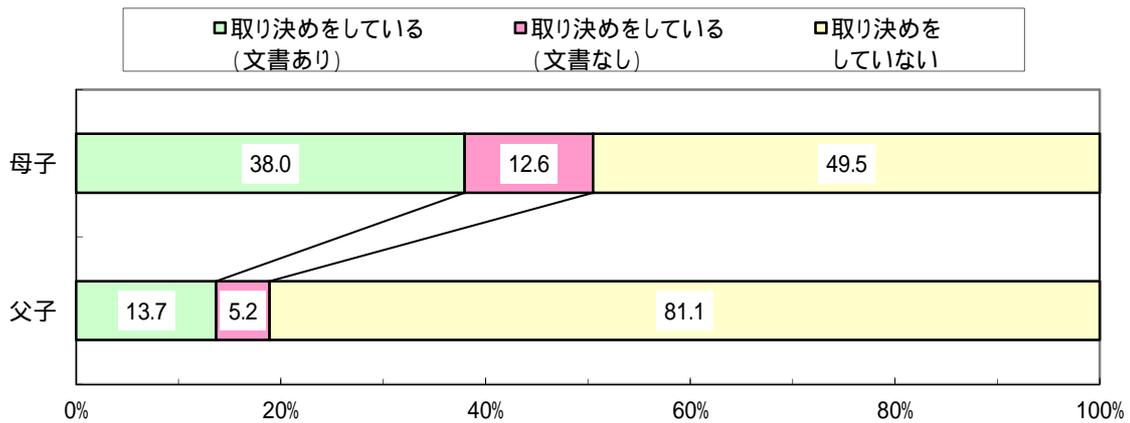
(2) 養育費の取り決め状況

問) 養育費の取り決めをしていますか。
 「取り決めをしていない」とお答えの方は、その主な理由は何ですか。

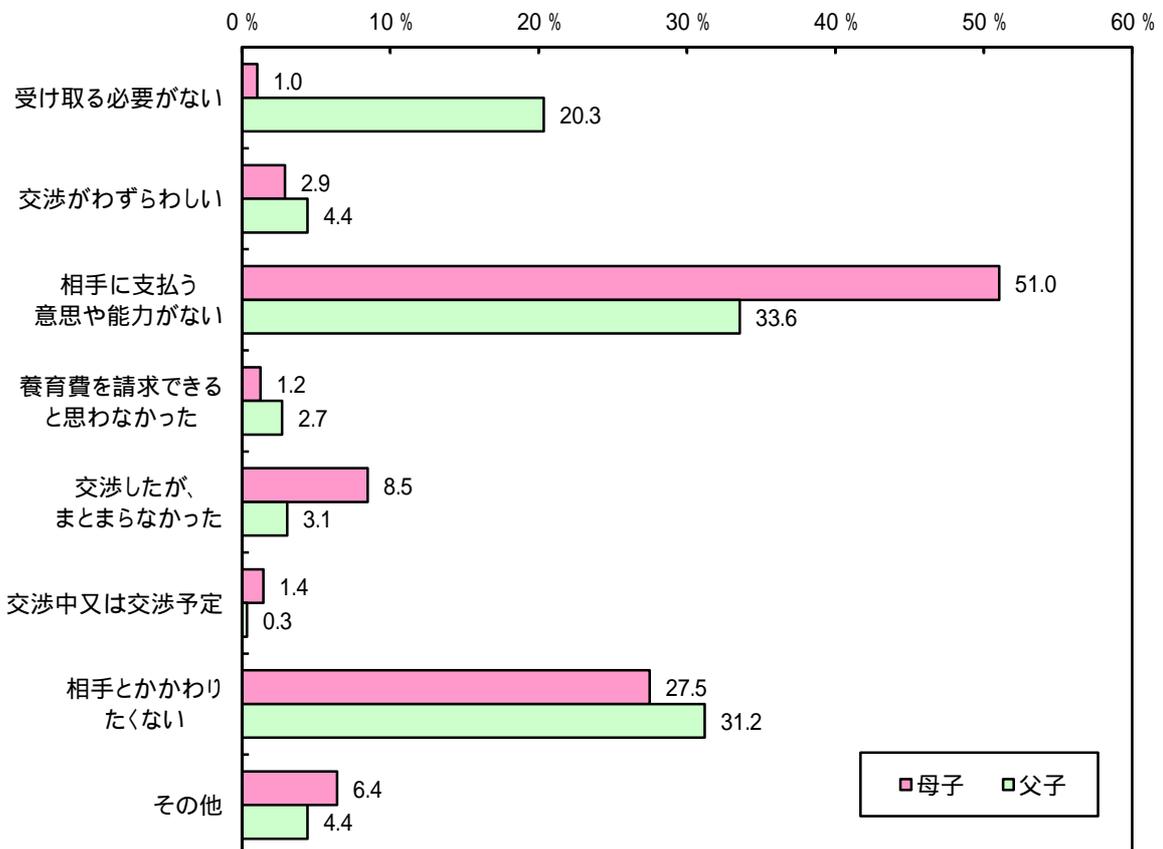
養育費の取り決めをしている(「取り決めをしている(文書あり)」、「取り決めをしている(文書なし)」の合計)割合は、母子世帯で50.6%、父子世帯では18.9%となっており、前回から母子世帯で増加(+5.2ポイント)し、父子世帯で減少(-2.7ポイント)している。

取り決めをしていない理由として、母子世帯、父子世帯ともに「相手に支払う意思や能力がない」(各51.0%、33.6%)が最も多く、次いで「相手とかかわりたくない」(各27.5%、31.2%)となっている。父子世帯では「受け取る必要がない」(20.3%)の割合が母子世帯と比べて高くなっているが、前回からは減少(-8.7ポイント)している。

養育費の取り決め状況



養育費の取り決めをしていない理由



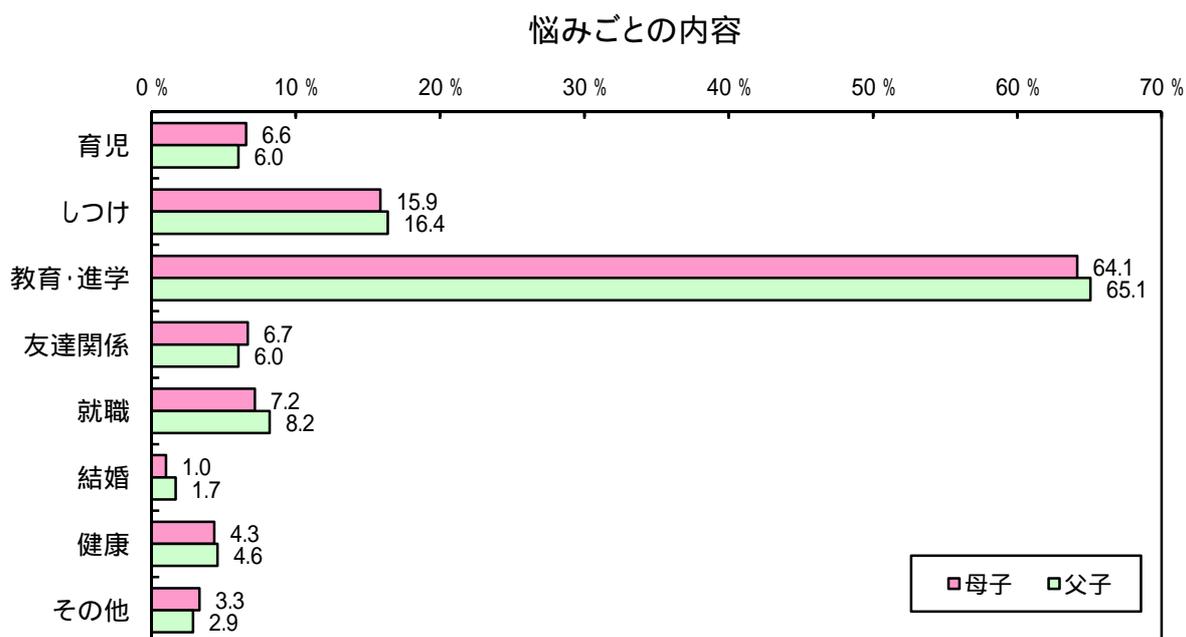
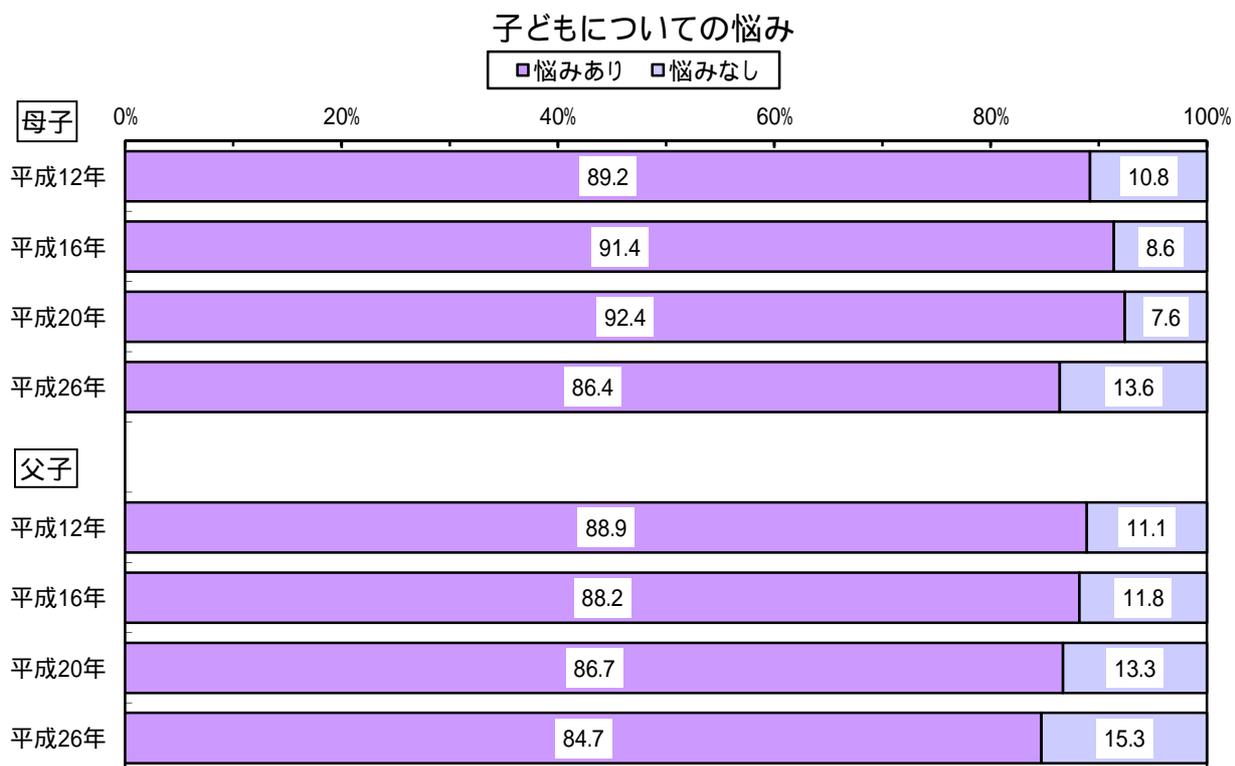
9 子どもの養育・教育

(1) 子どもについての悩み

問) お子さんのことで悩みごとはなんですか。(2つ以内)

母子世帯、父子世帯の8割超(各86.4%、84.7%)が、子どもについての悩みがあると回答している。

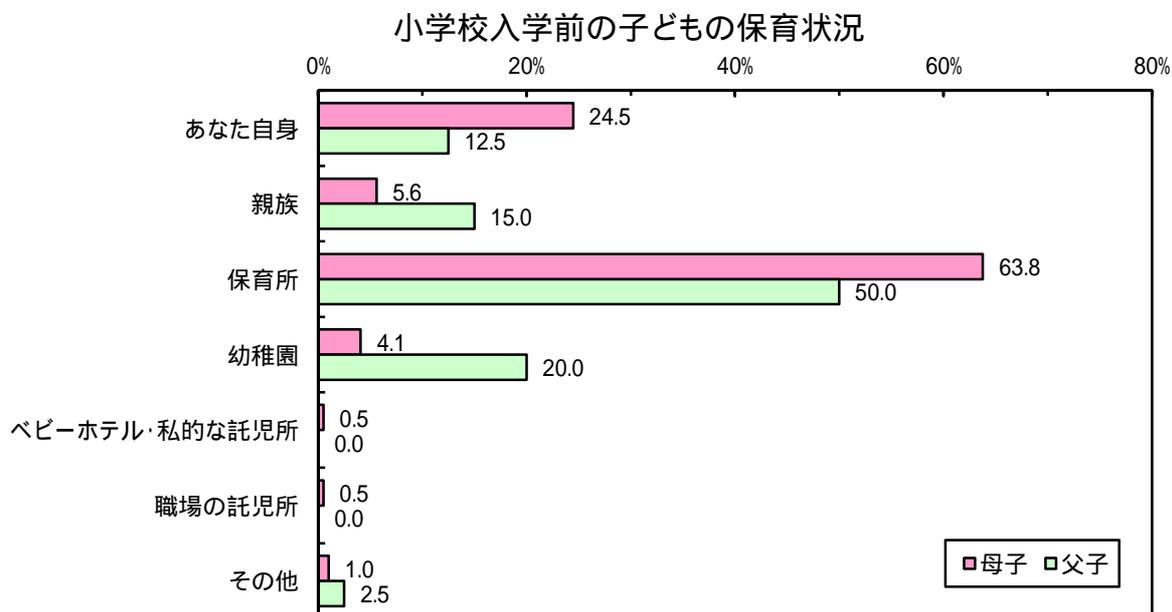
悩みごとの内容は、母子世帯、父子世帯ともに「教育・進学」(各64.1%、65.1%)が6割超を占め最も多く、次いで「しつけ」(各15.9%、16.4%)となっている。



(2) 小学校入学前の子どもの保育状況

問) 小学校入学前のお子さんの保育は主にどなたがしますか。

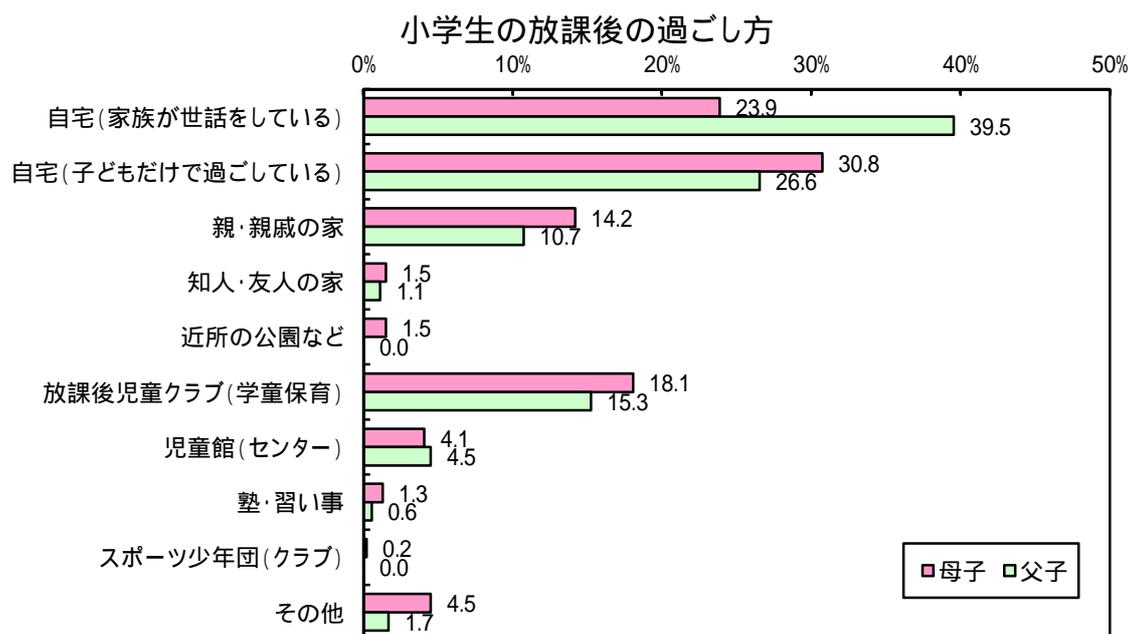
母子世帯、父子世帯ともに「保育所」(各63.8%、50.0%)が最も多くなっている。以下、母子世帯では「あなた自身」(24.5%)が、父子世帯では「幼稚園」(20.0%)、「親族」(15.0%)が多くなっている。



(3) 小学生の放課後の過ごし方

問) あなたが仕事などで家を留守にしている場合、お子さんは放課後主にどこで過ごしていますか。

母子世帯は「自宅(子どもだけで過ごしている)」(30.8%)が最も多く、以下「自宅(家族が世話をしている)」(23.9%)、「放課後児童クラブ」(18.1%)の順となっている。父子世帯は「自宅(家族が世話をしている)」(39.5%)が最も多く、以下「自宅(子どもだけで過ごしている)」(26.6%)、「放課後児童クラブ」(15.3%)の順となっている。母子世帯、父子世帯ともに自宅が多いが、母子世帯は子どもだけで過ごしている方が多く、父子世帯は家族が世話をしている方が多くなっている。



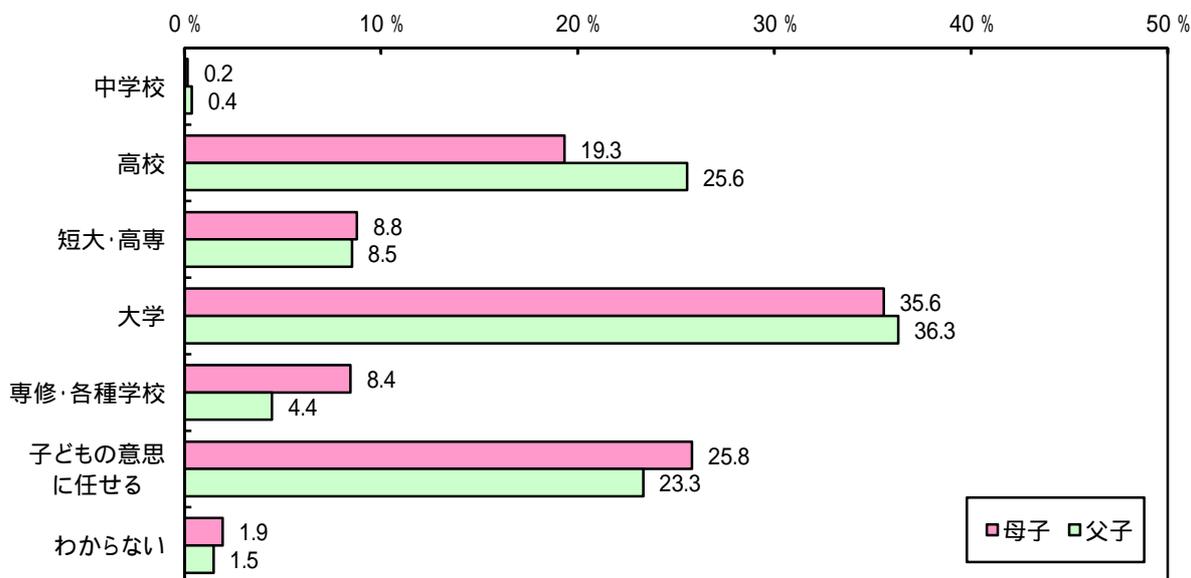
(4) 子どもの教育目標

問) お子さんへはどの程度まで教育を受けさせたいと思いますか。

母子世帯、父子世帯ともに「大学」(各35.6%、36.3%)が最も多くなっており、以下「子どもの意思に任せる」(各25.8%、23.3%)、「高校」(各19.3%、25.6%)の割合が高くなっている。

前回から母子世帯、父子世帯ともに「大学」の割合が増加(各+4.2ポイント、+4.7ポイント)し、「高校」の割合が減少(各-7.1ポイント、-6.0ポイント)している。

子どもの教育目標

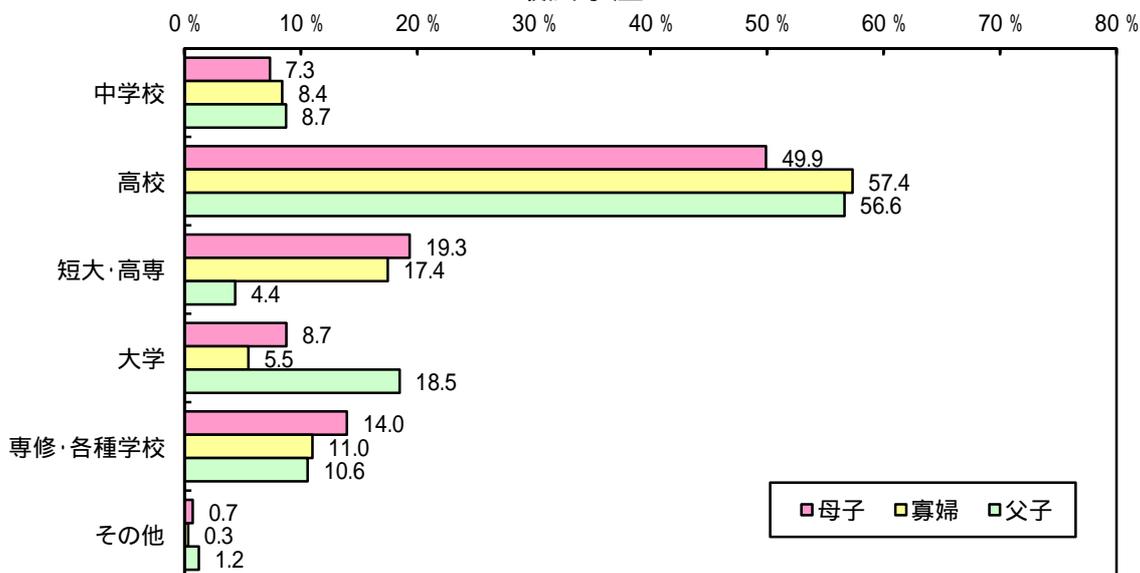


(5) 最終学歴

問) あなたの最終学歴であてはまるものはどれですか。

全ての世帯区分で「高校」(母子世帯49.9%、寡婦57.4%、父子世帯56.6%)が最も多く5割程度を占め、次いで母子世帯、寡婦では「短大・高専」(各19.3%、17.4%)の割合が、父子世帯では「大学」(18.5%)の割合が高くなっている。

最終学歴

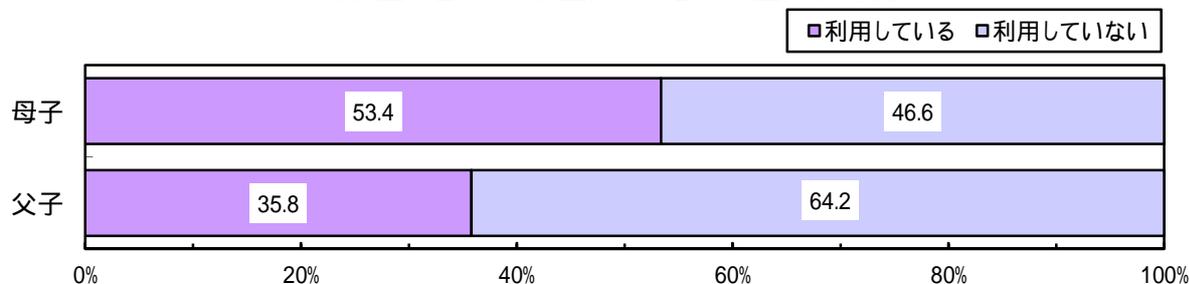


(6) 子ども(高校、短大・大学生及びその他の学生)の教育費

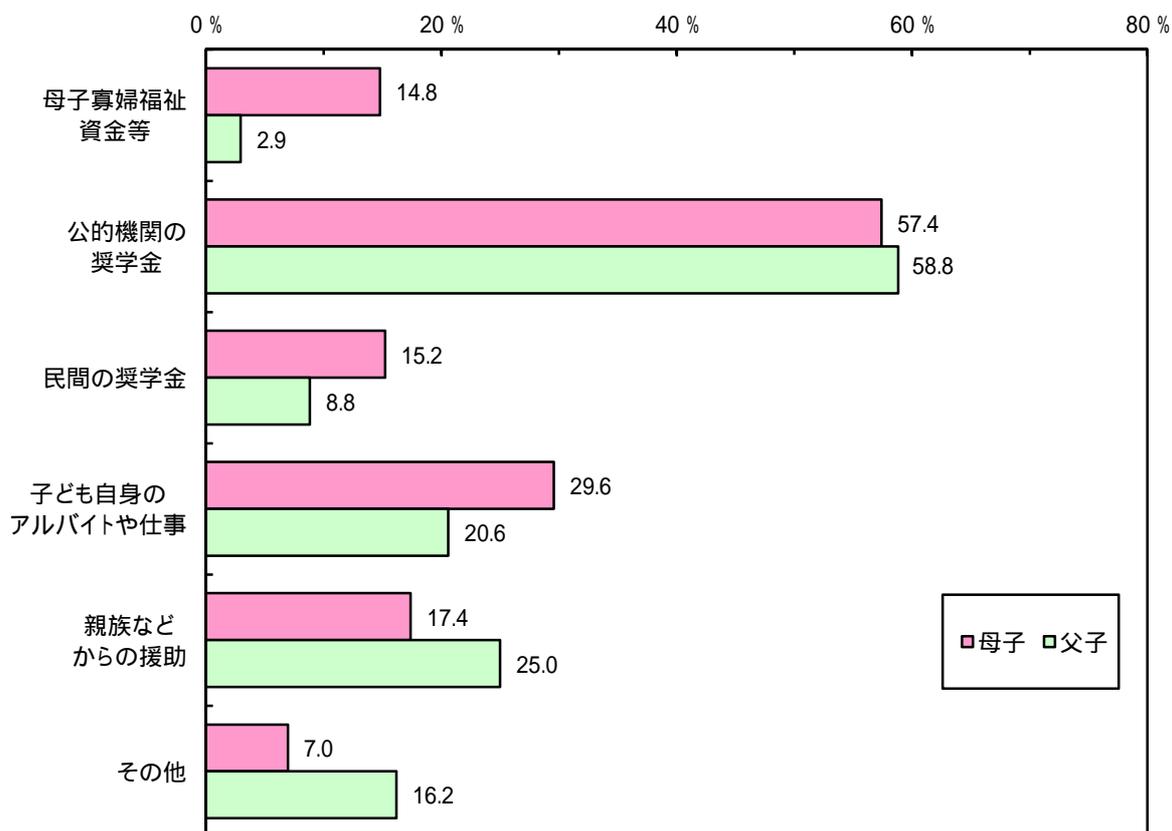
問) お子さんの教育費として利用しているものがありますか。(2つ以内)

高校、短大・大学生及びその他の学生のいる世帯でその子どもの教育費として利用しているものは、母子世帯、父子世帯ともに、「公的機関の奨学金」(各57.4%、58.8%)が最も多くなっている。一方、「何も利用していない」も母子世帯で46.6%、父子世帯で64.2%みられる。

高校生、短大・大学生、その他の学生の教育費



高校生、短大・大学生、その他の学生の教育費



10 悩み・相談相手等

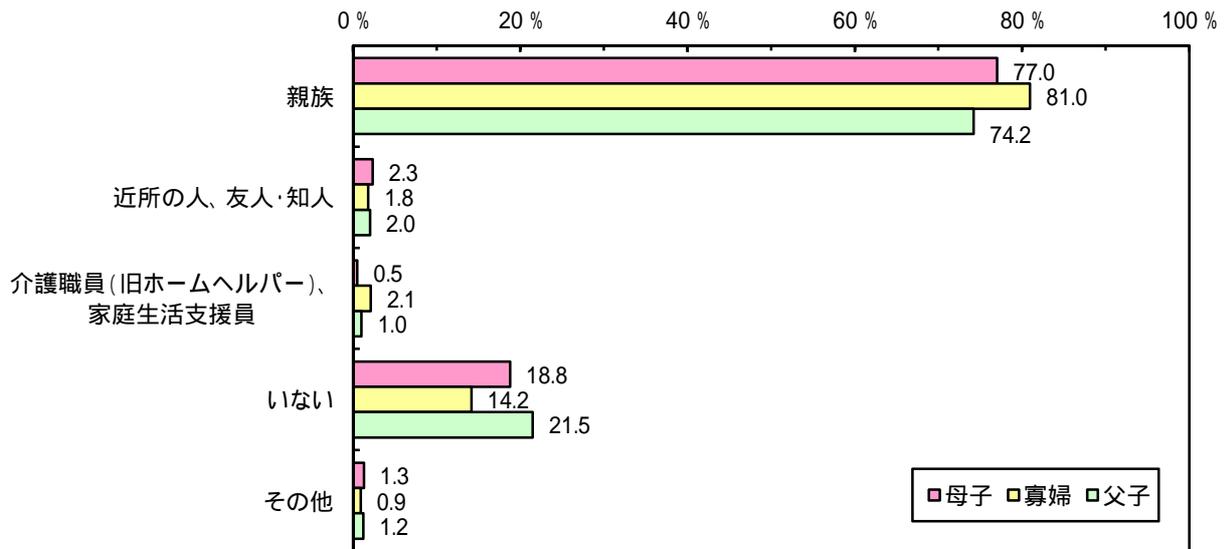
(1) 病気時に世話をしてくれる人

問) 病気などで一時的に介護が必要になったとき、身の回りの世話をしてくれる人はどなたですか。

あなたが病気するとき

全ての世帯区分で「親族」(母子世帯77.0%、寡婦81.0%、父子世帯74.2%)が最も多くなっているが、「世話をしてくれる人がいない」(各18.8%、14.2%、21.5%)も1～2割程度となっている。

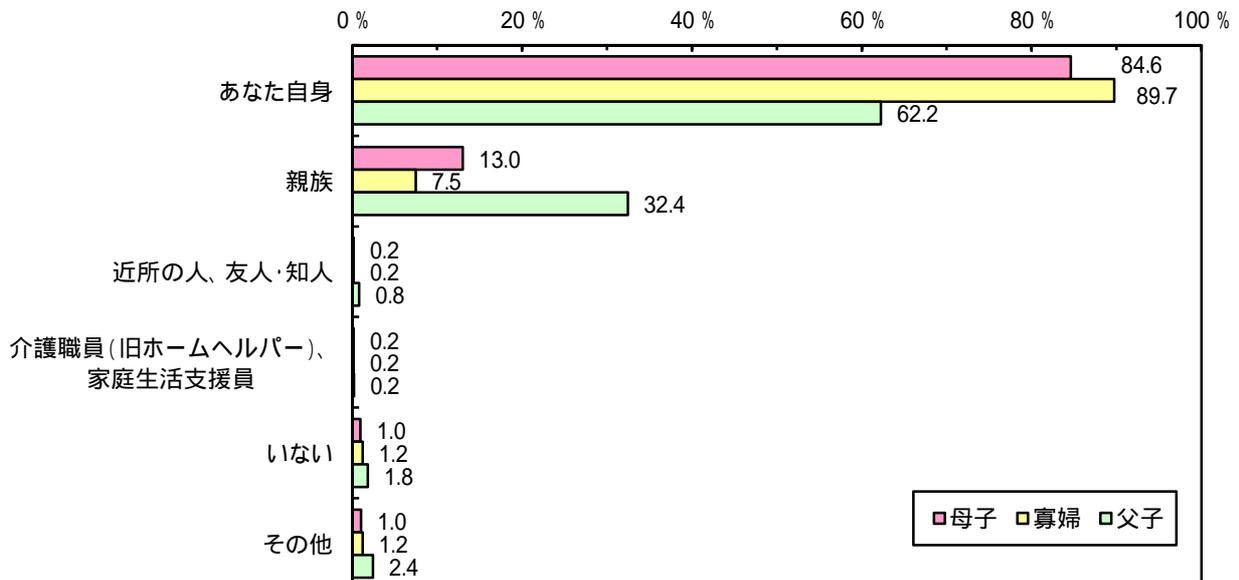
病気時に世話をしてくれる人(あなたが病気するとき)



お子さんが病気するとき

全ての世帯区分で「あなた自身」(母子世帯84.6%、寡婦89.7%、父子世帯62.2%)が6～8割超と多数を占めている。父子世帯では「親族」(32.4%)の割合が他に比べて高くなっている。

病気時に世話をしてくれる人(子どもが病気するとき)

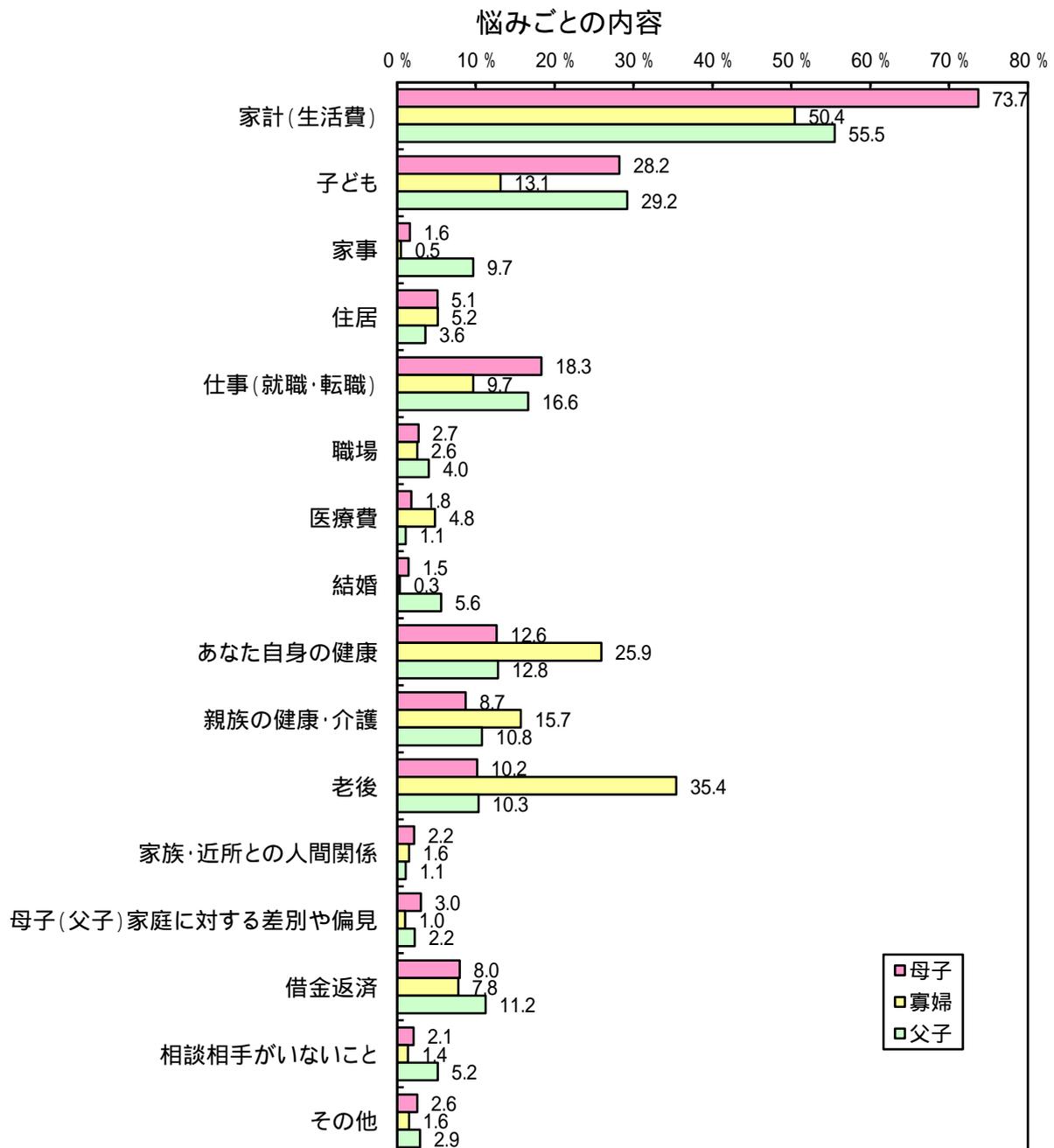
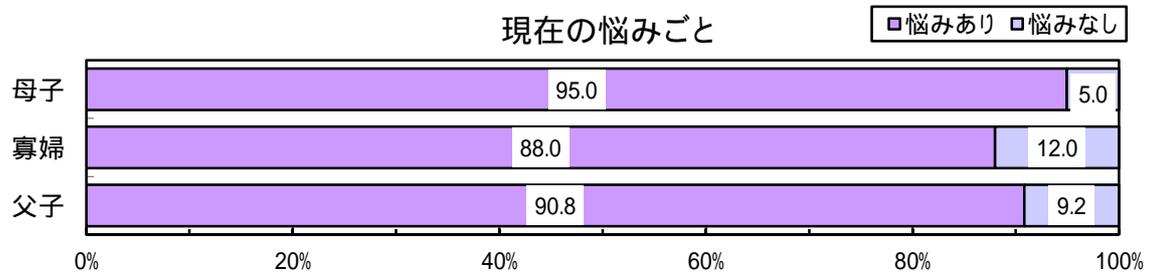


(2)現在の悩みごと

問) あなたの現在の悩みごとは何ですか。(2つ以内)

全ての世帯区分の9割程度(母子世帯95.0%、寡婦88.0%、父子世帯90.8%)で、現在悩みがあると回答している。

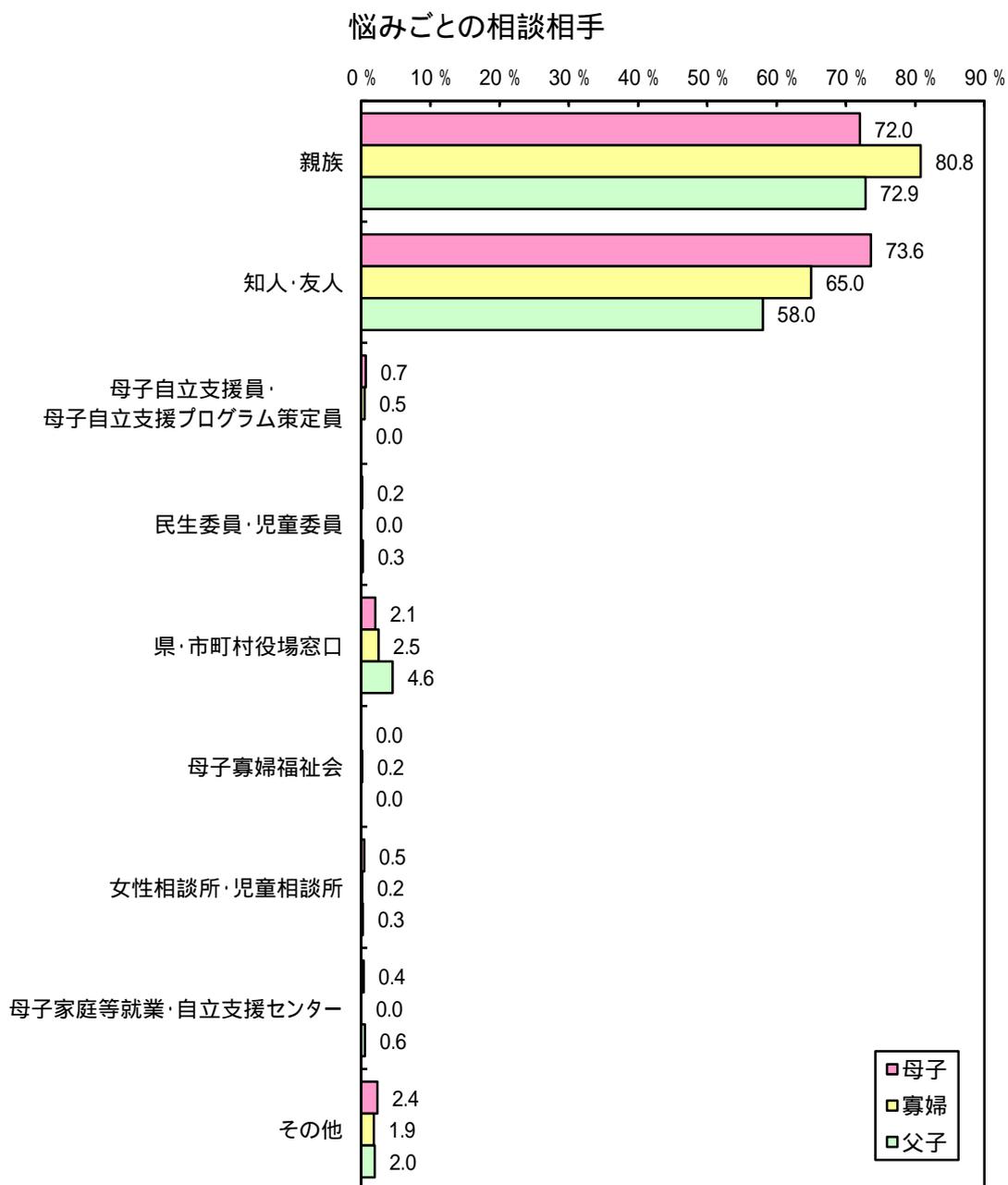
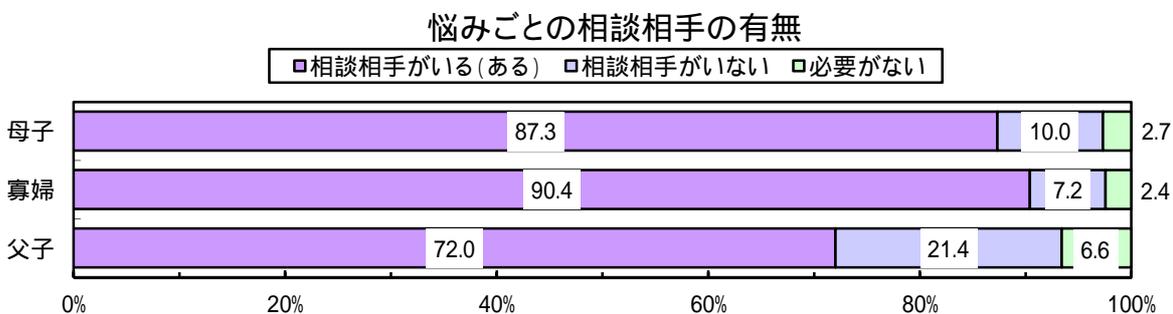
悩みごとの内容は、全ての世帯区分で「家計(生活費)」(各73.7%、50.4%、55.5%)が最も多くなっている。以下、母子世帯、父子世帯では「子ども」(各28.2%、29.2%)、「仕事」(各18.3%、16.6%)の順となっており、寡婦では「老後」(35.4%)、「あなた自身の健康」(25.9%)の順となっている。



(3) 悩みごとの主な相談相手

問) 悩みごとの主な相談相手はどなたですか。(2つ以内)

全ての世帯区分の7～9割(母子世帯87.3%、寡婦90.4%、父子世帯72.0%)が、相談相手がいると回答している。主な相談相手は「親族」(各72.0%、80.8%、72.9%)、「知人・友人」(各73.6%、65.0%、58.0%)が多くなっている。



11 福祉制度等

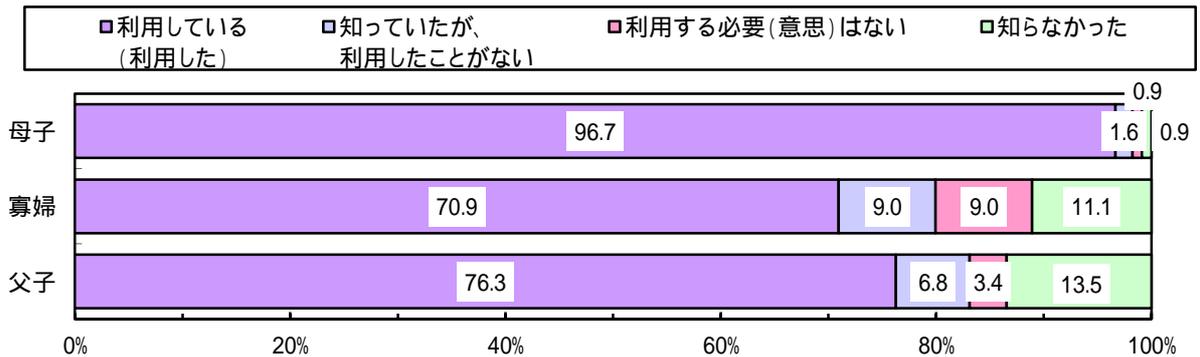
(1) 福祉制度等の利用状況

問) あなたが利用している(利用した)福祉制度等はなんですか。(主なもの3つ以内)

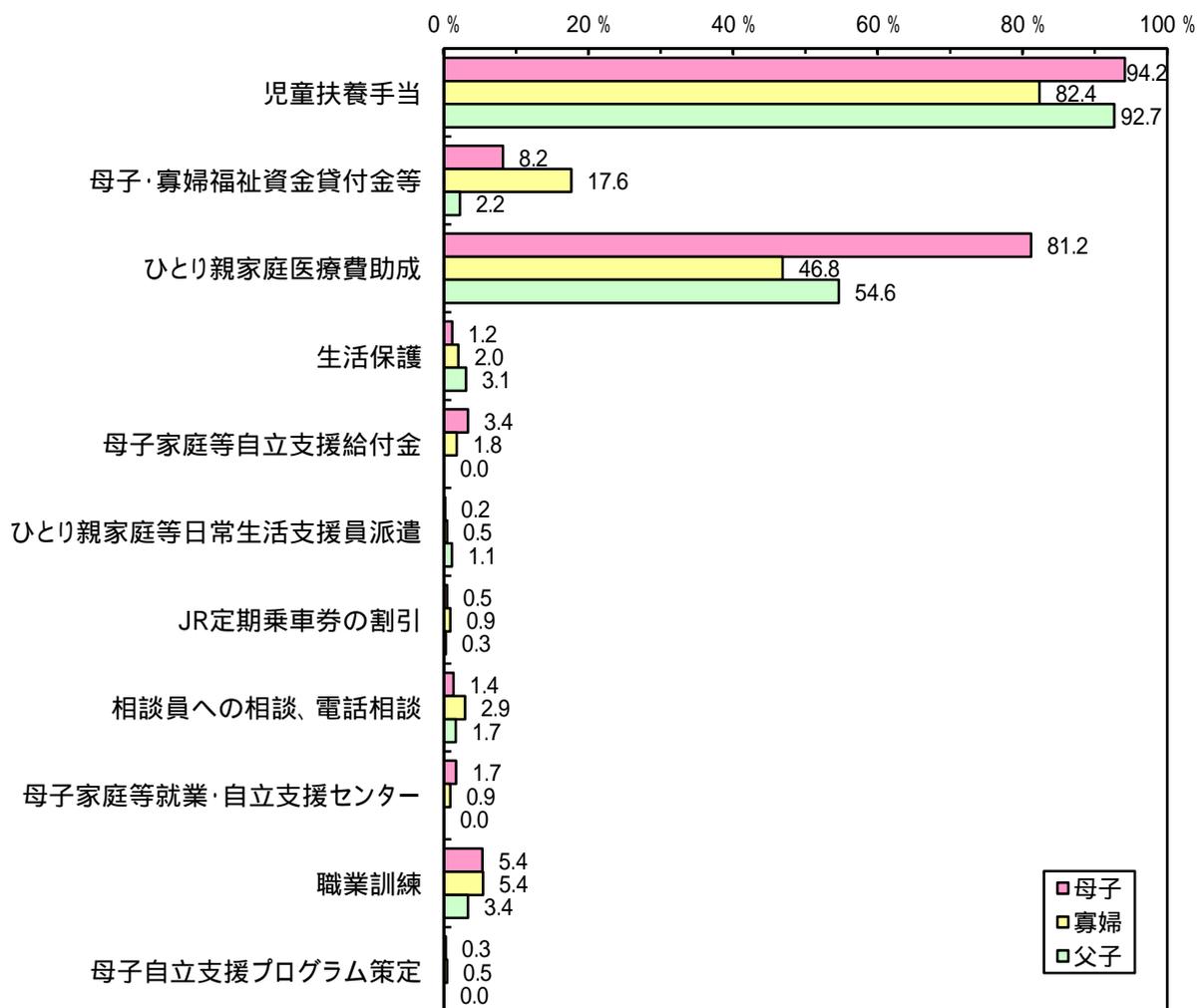
全ての世帯区分で福祉制度等を「利用している(利用した)」(母子世帯96.7%、寡婦70.9%、父子世帯76.3%)が多数を占めている。

利用している(利用した)福祉制度等は、全ての世帯区分で「児童扶養手当」(各94.2%、82.4%、92.7%)が最も多く、次いで「ひとり親家庭医療費助成」(各81.2%、46.8%、54.6%)となっている。

福祉制度等の利用状況



利用している(利用した)福祉制度等

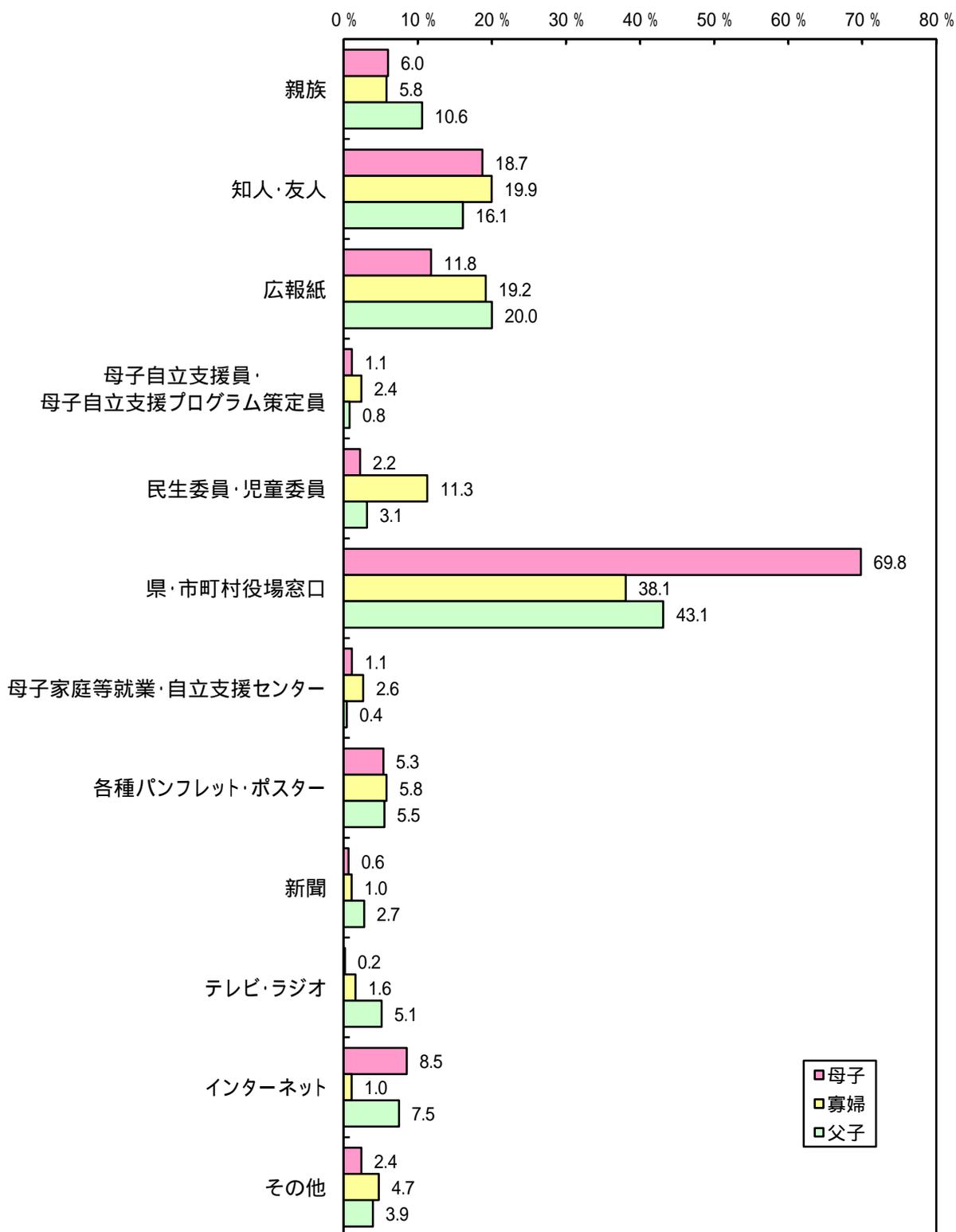


(2) 福祉制度等を知った方法

問) 福祉制度等をどのようにして知りましたか。(2つ以内)
 (11の(1)で「知らなかった」以外と回答した方のみ回答)

全ての世帯区分で「県・市町村役場窓口」(母子世帯69.8%、寡婦38.1%、父子世帯43.1%)が最も多くなっており、以下「知人・友人」(各18.7%、19.9%、16.1%)、「広報紙」(各11.8%、19.2%、20.0%)が多くなっている。

福祉制度等を知った方法

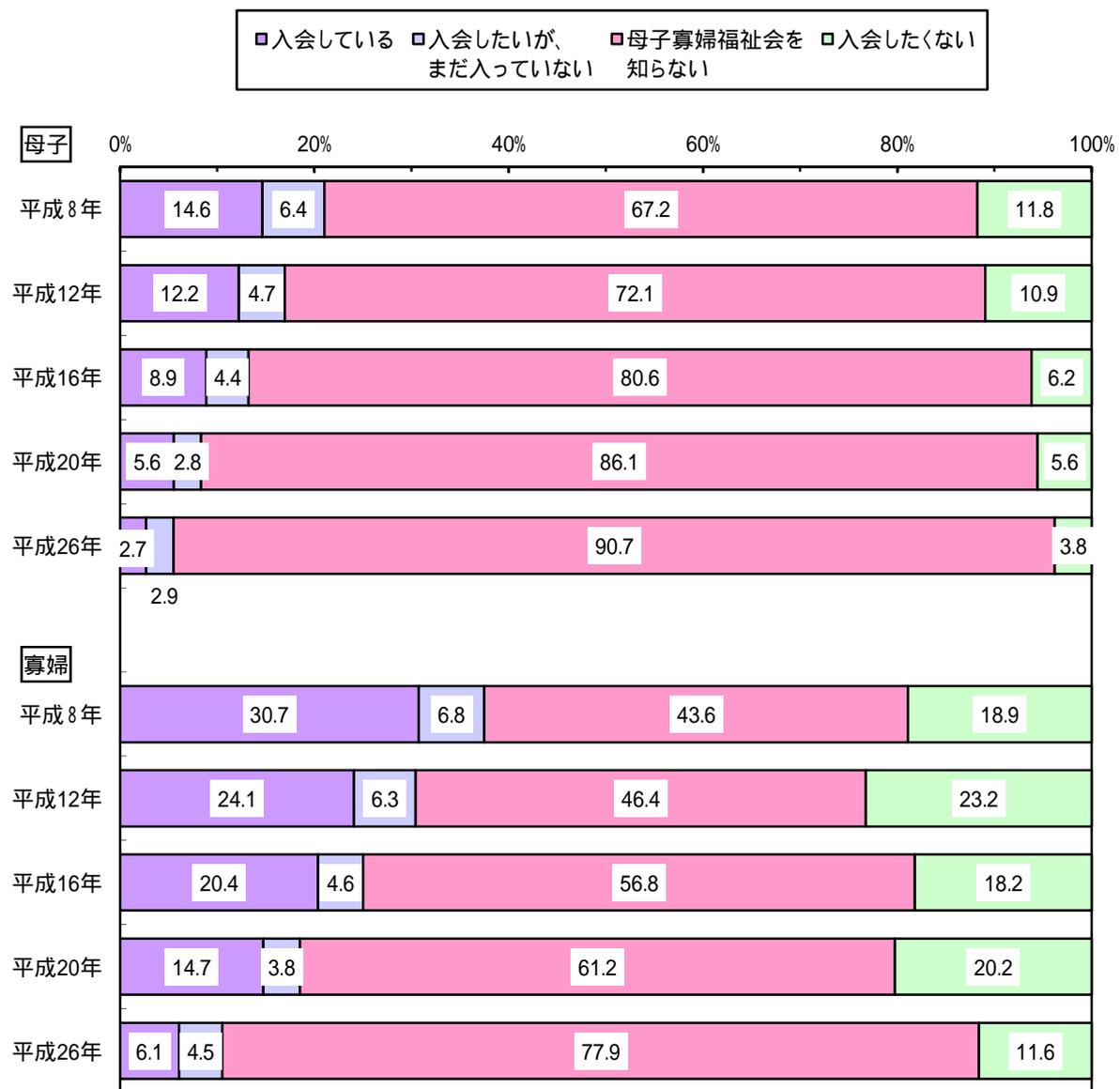


(3) 母子寡婦福祉会への入会状況

問) 母子寡婦福祉会についてお答えください。

母子世帯、寡婦ともに「母子寡婦福祉会を知らない」(各90.7%、77.9%)が多数を占め、増加傾向が続いている。一方で「入会している」(各2.7%、6.1%)は1割に満たず、減少傾向が続いている。

母子寡婦福祉会への入会状況



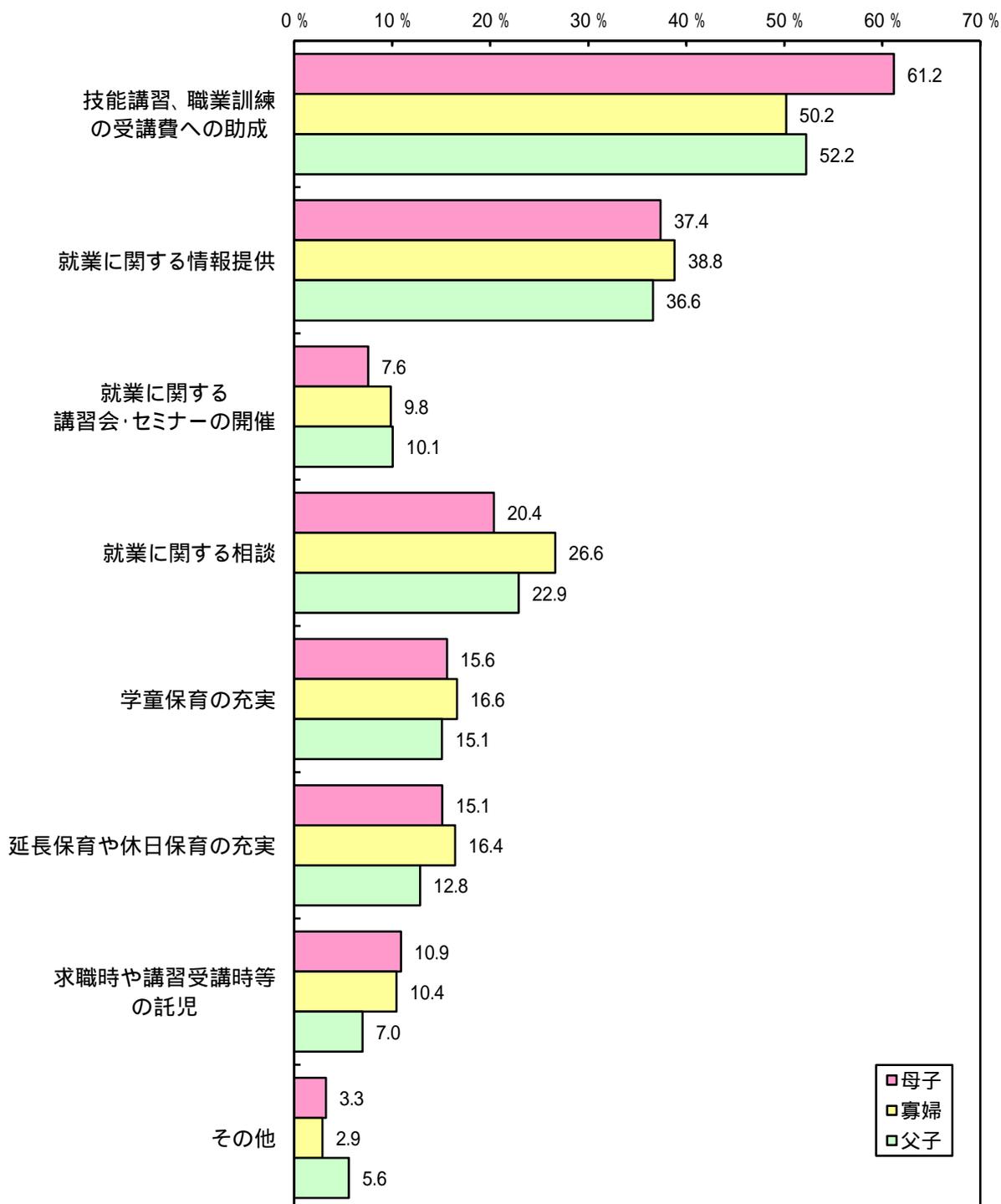
12 行政への要望等

(1) 県・市町村における就職・転職に関する支援事業への要望

問) 県・市町村において、就職・転職に関する支援事業を行う場合、どんなことを望みますか。
(2つ以内)

全ての世帯区分で「技能講習、職業訓練の受講費への助成」(母子世帯61.2%、寡婦50.2%、父子世帯52.2%)が最も多く、以下「就業に関する情報提供」(各37.4%、38.8%、36.6%)、「就業に関する相談」(各20.4%、26.6%、22.9%)の順となっている。

県・市町村における就職・転職に関する支援事業への要望

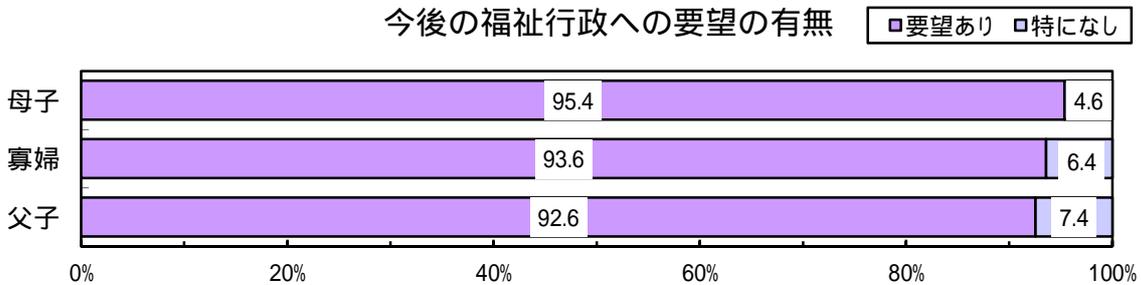


(2) 今後の福祉行政への要望

問) 今後の福祉行政にどんなことを望みますか。(3つ以内)

全ての世帯区分で今後の福祉行政への「要望あり」(母子世帯95.4%、寡婦93.6%、父子世帯92.6%)が9割超と多数を占めている。

要望の内容について、全ての世帯区分で「年金・手当などの充実」(各48.0%、45.9%、41.5%)、「医療費無料制度の拡充」(各39.9%、36.9%、43.4%)が多くなっている。また、母子世帯では「母子家庭等の優先雇用の援助」(43.9%)が、寡婦では「税の寡婦控除額の引き上げ」(35.9%)が、父子世帯では「日常生活支援事業の充実」(33.2%)が他に比べて多くなっている。



今後の福祉行政への要望

